ISO 9001
認証取得

shindaiwa

取 扱 説 明 書

ロータリーモア

ＢＲＭ２１０－４ＷＤＳ

⚠ 注 意

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

新ダイワ工業株式会社

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。
また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。
なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

・本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

⚠ 警　告

・本製品は草刈作業車です。草刈作業以外の用途には使用しないでください。

・本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。

・本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

警告用語について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警　告　用　語	意　味
⚠ 危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠ 警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

保証とアフターサービスについて

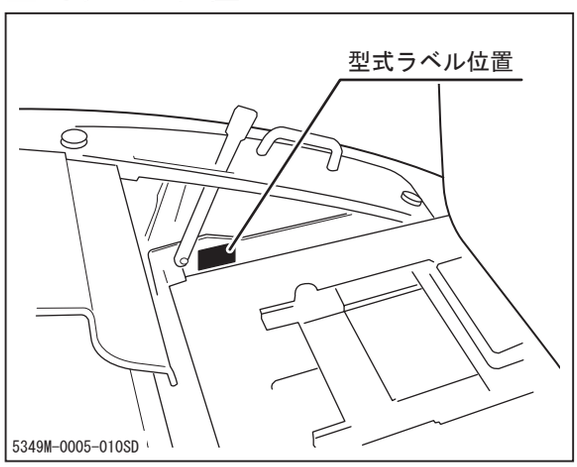
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。詳しくは本書巻末に貼付の保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社営業所へお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の**「本製品の仕様」**（☞10ページ）を参照してください。

型式ラベル位置



型式ラベル



補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後10年とします。

目　　次

１．安全に関する注意事項　1

本製品に添付してある警告ラベルについて ・・・・・・・・・・・・ 1

安全運転・作業のための心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

２．各部の名称とはたらき　8

各部の名称とはたらき ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

３．製品仕様　10

本製品の仕様 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

付属品明細 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

４．運転と操作　12

運転前の準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

始業点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

作業のしかた ・・・

燃料系統 ・・・

６．不具合発生時の処置 62

不具合診断表 ・・ 62

７．本製品の移送 66

トラックへの積み降ろし要領 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

クレーン等による吊り上げ要領 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

緊急時の移動のしかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

・エンジン取扱説明書

・バッテリ取扱説明書

※本書とあわせて必ずお読みください。

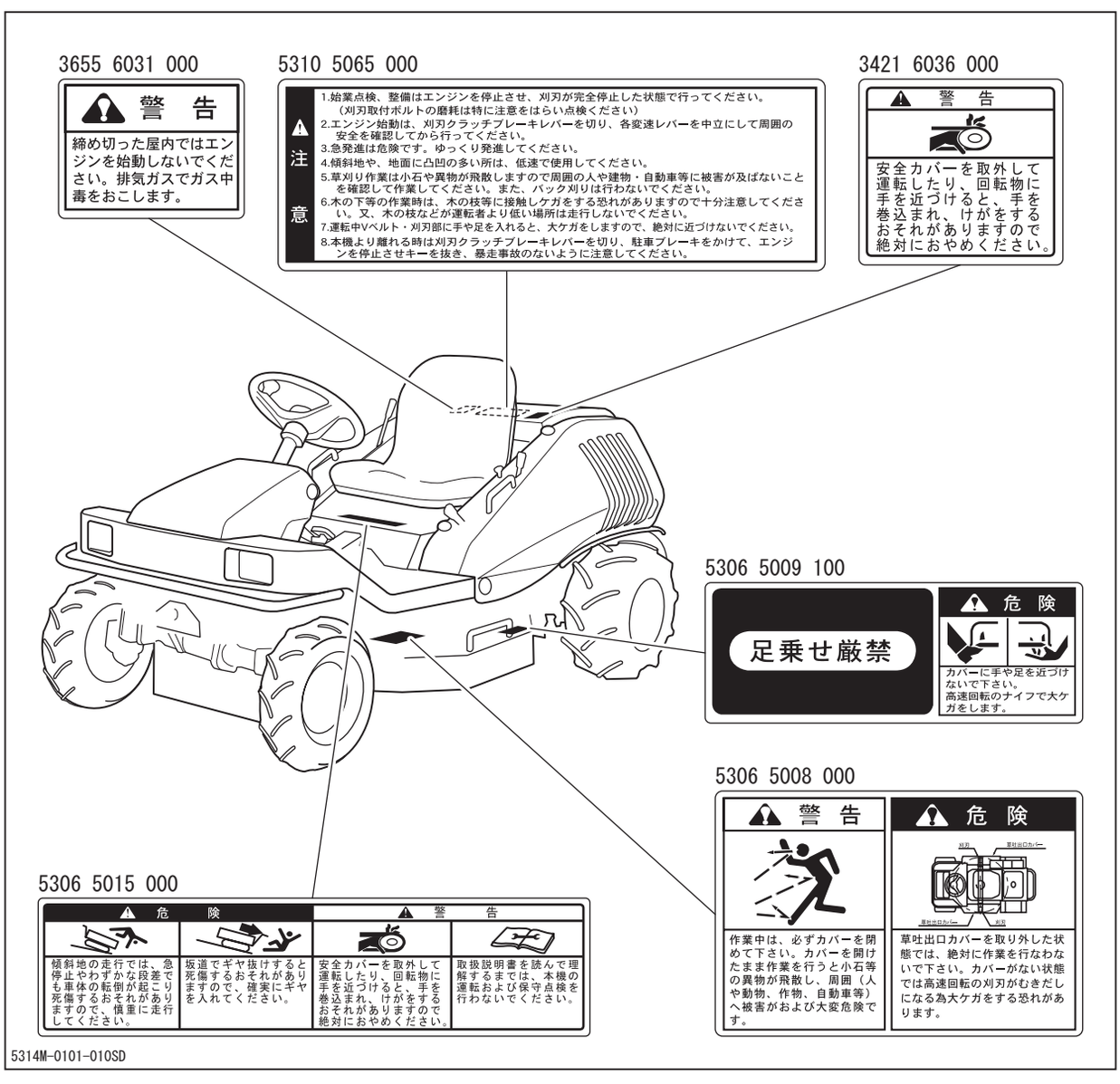
本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。
この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

・警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。

・警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。

・警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。



安全に関する注意事項

5310 5037 000

⚠ 危 険

火気厳禁

引火の恐れがありますので、火を近付けないでください。

⚠ 注 意

火災の恐れがありますので以下の項目を必ずお守りください。
1. 燃料の補給はエンジンとマフラーが冷えてから給油口内フィルターの油面上限ラインまで行ってください。
2. 傾斜地作業での油量は給油口内フィルターの規定油面以下にしてください。
3. 作業終了後は必ずエンジンカバー内をエアブローで清掃してください。枯れ草の堆積は禁物です。

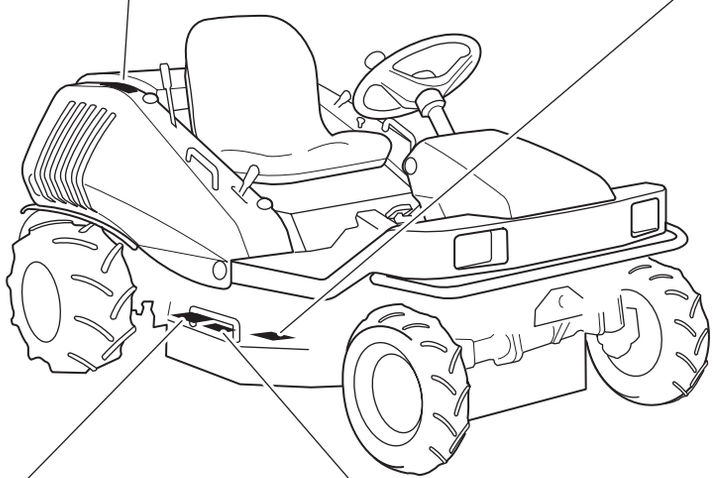
エンジンのダストカバー及び冷却フィンに、ゴミやホコリが詰まるとエンジンがオーバーヒートをおこす恐れがありますので、定期的に清掃してください。尚、詳しくは取扱説明書を御覧ください。

5310 5067 000

⚠ 注 意



スライス スライディング機構をご使用の際は、刈刃カバーが全幅より外側に出るので障害物等に衝突しないように走行してください。



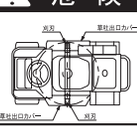
5306 5008 000

⚠ 警 告



作業中は、必ずカバーを閉めて下さい。カバーを開けたまま作業を行うと小石等の異物が飛散し、周囲（人や動物、作物、自動車等）へ被害がおよび大変危険です。

⚠ 危 険



草吐出口カバーを取り外した状態では、絶対に作業を行なわないで下さい。カバーがない状態では高速回転の刈刃がむきだしになる為大ケガをする恐れがあります。

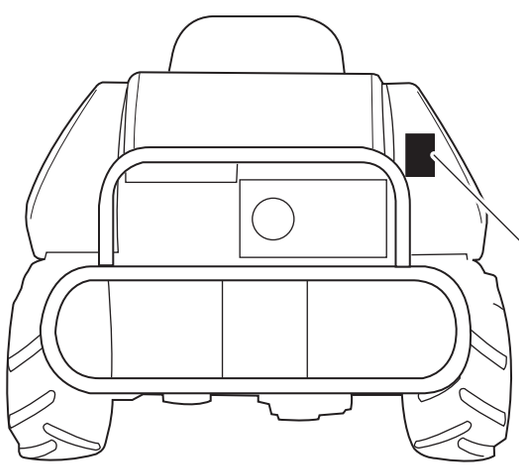
5306 5009 100

足乗せ厳禁

⚠ 危 険



カバーに手や足を近づけないで下さい。
高速回転のナイフで大ケガをします。



3655 6015 000

⚠ 警 告



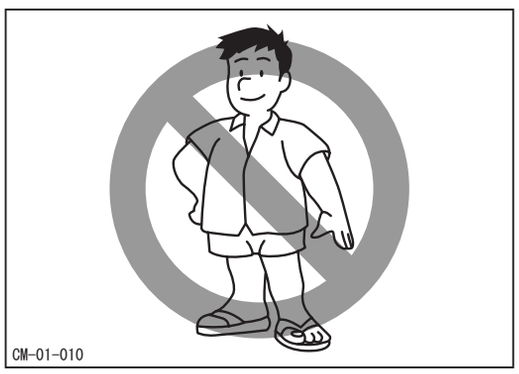
高温部に触れると火傷します。高温部付近で作業する時は、十分冷えた後に行ってください。

5314M-0101-020SD

安全運転・作業のための心得

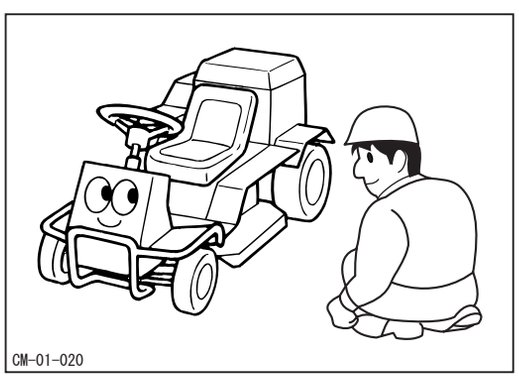
運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

運転前の心得


CM-01-010

正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服装を心がけ、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。また、ヘルメット、保護靴、保護めがね、手袋等の保護具を着用してください。

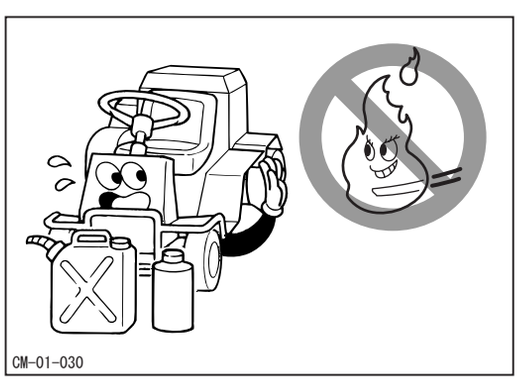

CM-01-020

始業点検の励行

運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。

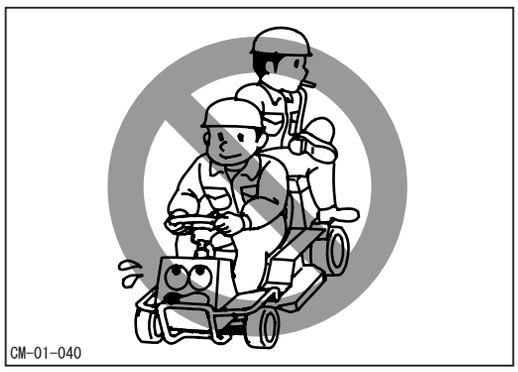
清掃の励行

運転の前に必ず車両に堆積した草等を取り除いてください。特にエンジン周りに堆積した枯草は火災の原因となります。


CM-01-030

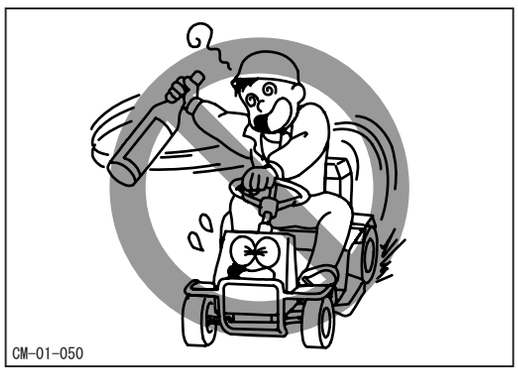
火気厳禁

燃料、油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも、火気を近づけないでください。



同乗禁止

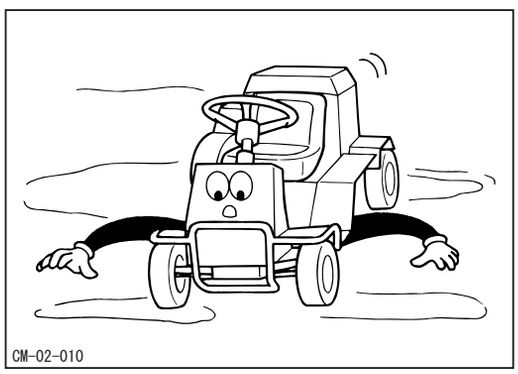
本製品は一人乗りです。運転者以外は乗せないでください。また、本製品は公道および公道とみなされる道路では運転できません。当該道路では絶対に運転しないでください。



無謀運転禁止

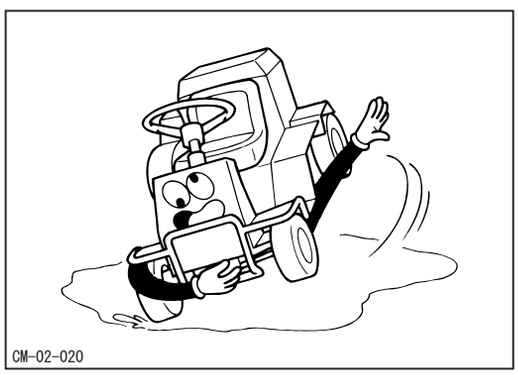
飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない若年者による運転・作業も行わないでください。

走行時の心得



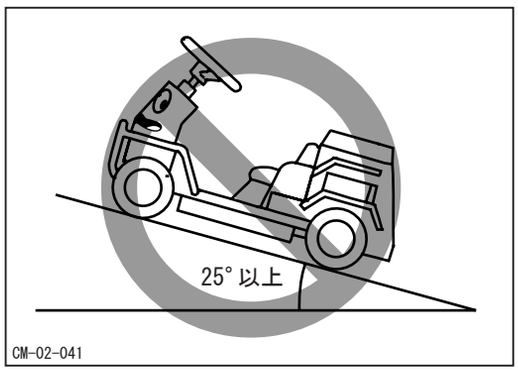
安全速度遵守

発進の前には必ず周囲の安全を確認し、走行時は走行路の勾配、路面の状態に応じた安全速度で走行してください。



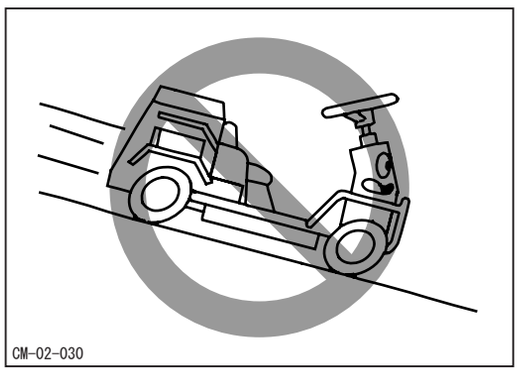
急発進、急加速、急旋回、急停止の禁止

急発進、急加速、急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。



傾斜地での作業に注意

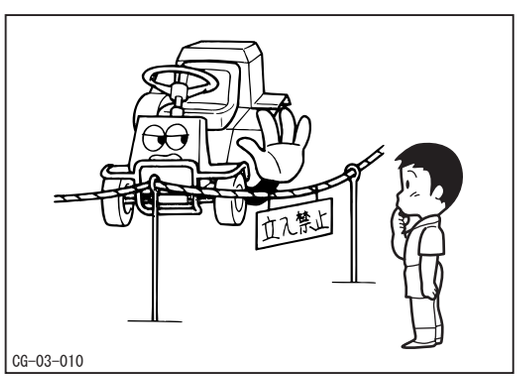
25° を超える急傾斜地では、本製品を使用しないでください。



下り坂では低速で走行する

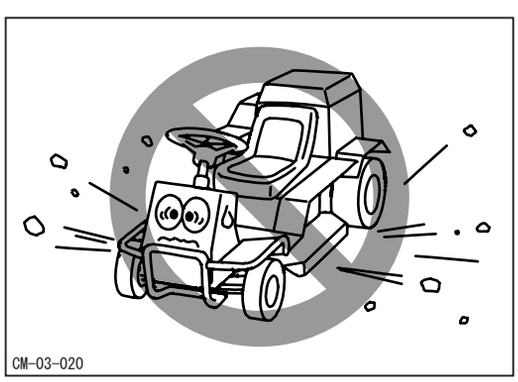
下り坂の前で一旦停止した後、副変速を低速位置に入れ、下るときには低速で走行してください。

作業時の心得



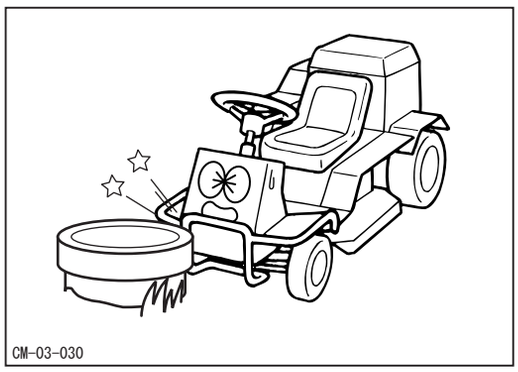
作業中の安全確保（立入禁止）

作業前に草刈作業中であることを掲示し、必要な場合にはガードロープを張る等して、作業範囲内に人（特に子供）が入り込まないようにし、安全を確保してください。



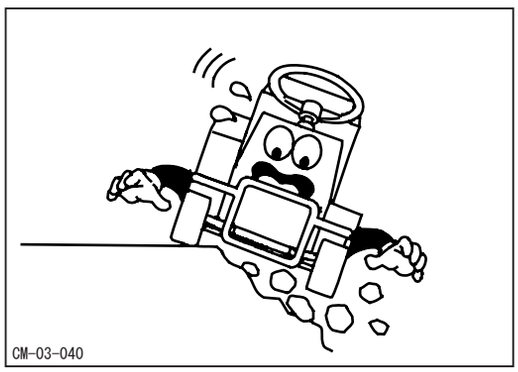
周囲へ配慮する

小石等の異物の飛散により、人や動物、農作物、建築物、自動車等へ被害を及ぼさないように十分に注意して作業を行ってください。



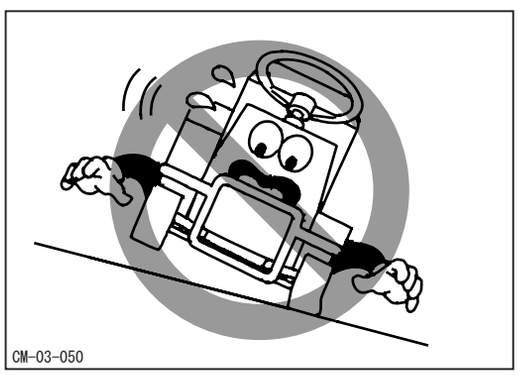
穴、障害物等に注意

作業の前に必ず穴、障害物等を確認し、十分に注意して作業を行ってください。



路肩の崩れに注意

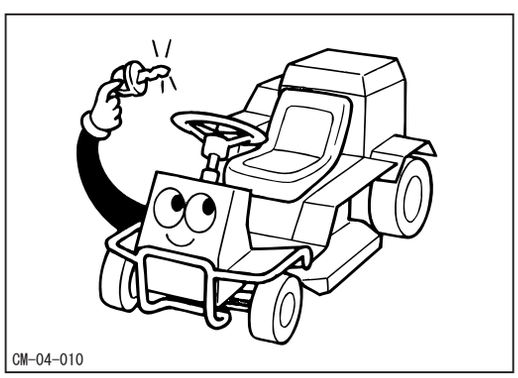
溝や土手の端は、路肩が崩れ、転倒するおそれがあり危険ですので、作業を行わないでください。特に降雨後や地震後の地盤は崩れやすいので注意してください。



斜面での旋回禁止

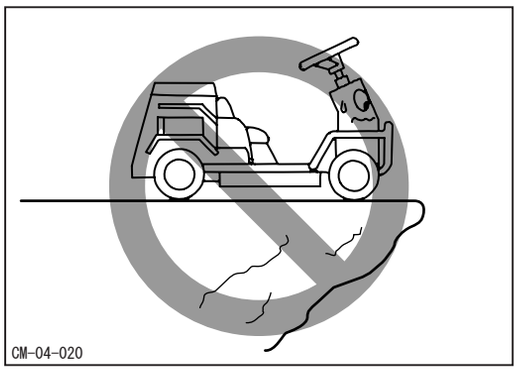
斜面での旋回は乗車姿勢が不安定になり危険ですので、行わないでください。

駐車時の心得



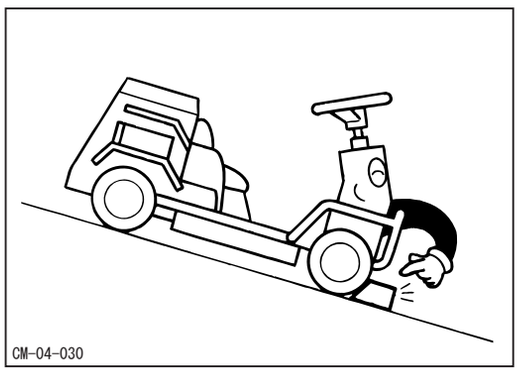
駐車時の安全確認

駐車時には必ず駐車ブレーキをかけ、エンジン停止を励行してください。また、キーを忘れずに抜いてください。



危険な場所での駐停車禁止

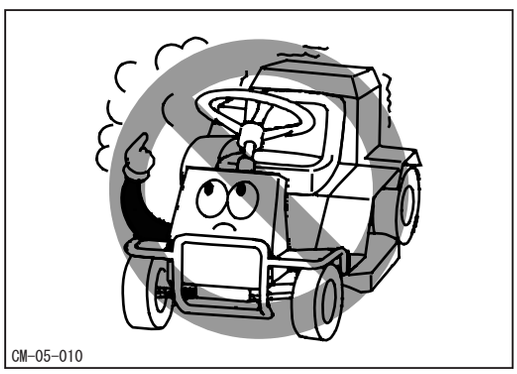
駐停車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。



傾斜地での輪止め励行

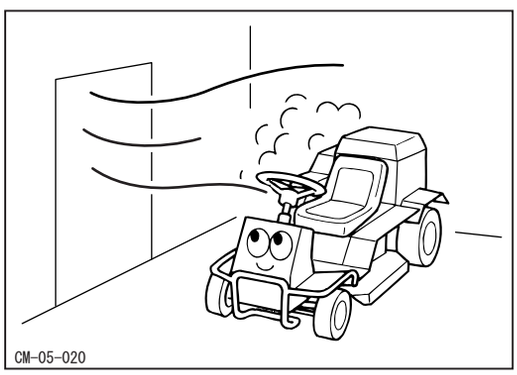
傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。

整備時の心得



エンジン回転中の整備禁止

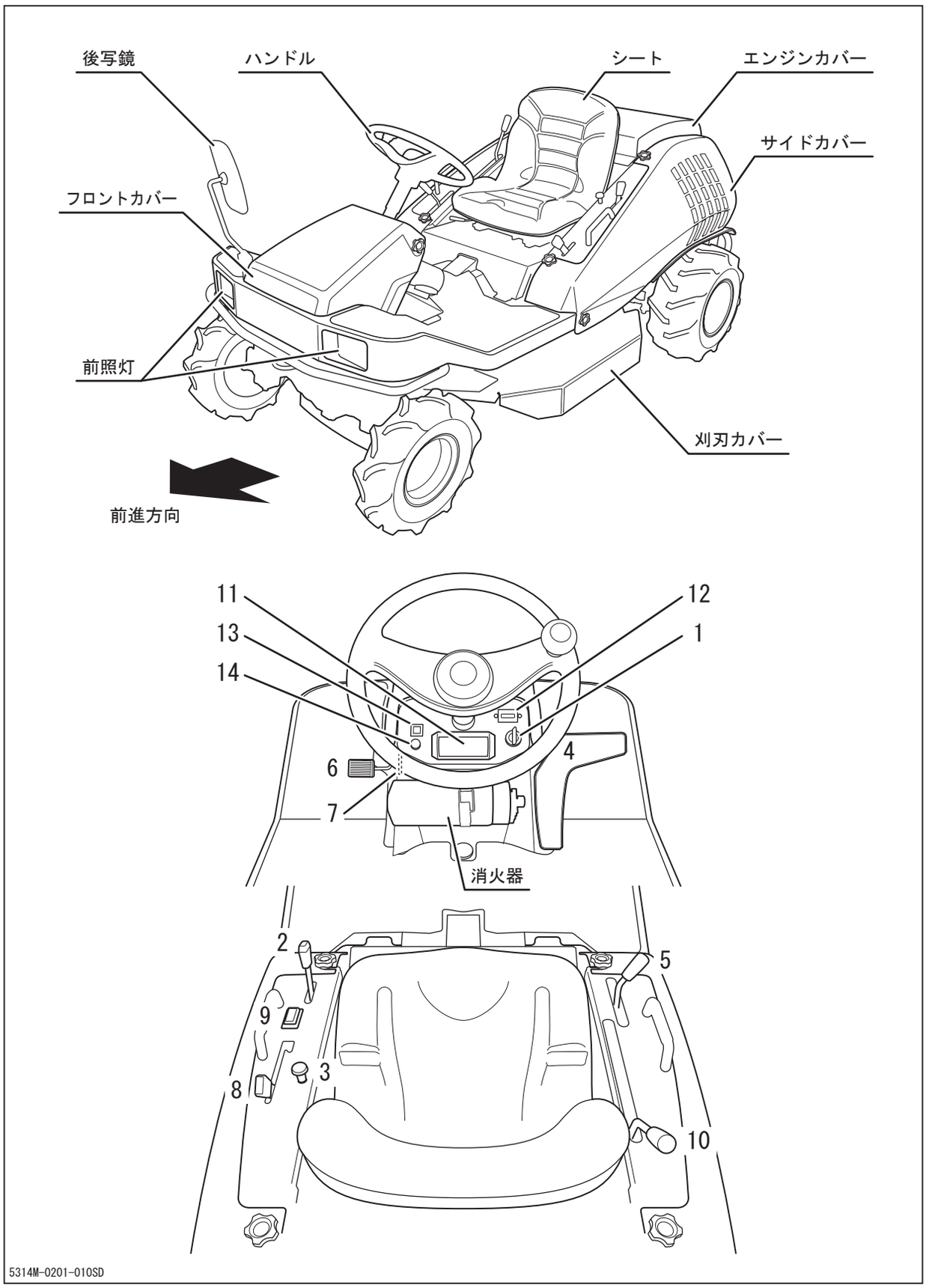
エンジン回転中は整備を行わないでください。必ずエンジンを停止し、キーを抜いてから整備を行ってください。



換気に注意

室内でエンジンを運転する場合は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくして作業を行ってください。

各部の名称とはたらき


後写鏡
ハンドル
シート
エンジンカバー
サイドカバー
フロントカバー
前照灯
刈刃カバー
前進方向
11
12
13
1
14
4
6
7
消火器
2
5
9
3
8
10
5314M-0201-010SD

各部の名称とはたらき　2

1　**メインスイッチ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動および停止させるときに使用します。

2　**スロットルレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジン回転数を調整するときに使用します。

3　**チョークレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動させるときに使用します。レバーを引くとチョークバルブが閉じ、レバーを戻すとチョークバルブが開きます。

4　**走行ペダル** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥車両を走行させるときに使用します。ペダルの前方を踏むと前進し、後方を踏むと後進します。ペダルを踏み込む角度により走行速度を無段階に調整します。

5　**副変速レバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥車両の走行速度を切り替えるときに使用します。

6　**ブレーキペダル** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥車両を停止させるときに使用します。ペダルを踏むと走行レバーが中立に戻り、ブレーキがかかります。

7　**駐車ブレーキロックレバー** ‥車両を駐車させるときに使用します。ブレーキペダルを踏み込んだ状態でレバーを手前に引くとブレーキペダルがロックされます。

8　**デフロックレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥後輪がスリップするときに使用します。デフロックレバーを「入」の位置に入れるとデフロックの状態になります。

9　**刈高調整スイッチ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥刈刃を上昇または下降させるときに使用します。

10 **刈刃クラッチレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥刈刃を回転および停止させるときに使用します。

11 **刈高さモニタ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥刈高さを表示します。

12 **アワメータ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥累計稼働時間を0.1時間単位で示します。

13 **オイルランプ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンオイルの油圧が正常かどうかを示します。エンジン始動後、消灯すれば正常です。

14 **ホーンスイッチ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥スイッチを押すとホーンが鳴ります。

本製品の仕様

⚠ 注 意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名称・型式				BRM210-4WDS
機械質量			kg	415
作業能率			m^2/h	9000
機械寸法	全長		mm	2065
	全幅		mm	1110
	全高		mm	1010
	ホイールベース		mm	1460
	トレッド		mm	前 810 / 後 900
	最低地上高		mm	115
エンジン	名称			カワサキ FH641V
	形式			空冷4サイクルV型2気筒ガソリン
	シリンダ(内径×行程)		mm	75.2×76
	総排気量		cm^3	675
	最大出力		$kW(PS)/min^{-1}$	15.7(21.0)/3600
	最大トルク		N・m(kg・m)	52.1(5.32)
	始動方式			セルフスタータ式
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン
	燃料消費率		g/kW・h(g/PS・h)	340(250)
	燃料タンク容量		ℓ	15
	潤滑油容量		ℓ	1.7(オイルフィルタカートリッジを含む)
	点火方式			無接点式マグネット点火
	点火プラグ品番			NGK BPR4ES
電装	バッテリ形式			40B19R
	バッテリ容量		V/Ah	12/28
走行性能	走行速度	高速	km/h	0～10.0(無段変速)
		低速	km/h	0～6.70(無段変速)
	最小回転半径		m	1.9
	登坂能力		度	25
	最大安定傾斜角度	左	度	45
		右	度	45

名称・型式			BRM210-4WDS
走行装置	主変速形式		ＨＳＴ
	副変速形式		選択噛合式
	ＨＳＴオイル容量	ℓ	3.0
	トランスミッション油量	ℓ	2.0
	ディファレンシャル油量	ℓ	0.36
	タイヤ 前輪		4.00-7
	タイヤ 後輪		17×8.00-8
	ステアリング形式		ラック＆ピニオン式　丸ハンドル
	ブレーキ形式		内拡式ブレーキ
刈取装置	刈幅	mm	900
	刈高	mm	20～100(無段階)
	刈刃スライド量	mm	150
	刈刃形式		フリーナイフ＆段付ステー
	刈刃枚数	枚	2
	刈刃駆動方式		シャフト駆動

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

付属品明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン取扱説明書	1	
3	バッテリ取扱説明書	1	
4	エンジン工具	1	エンジン整備用
5	メガネレンチ	1	

運転前の準備

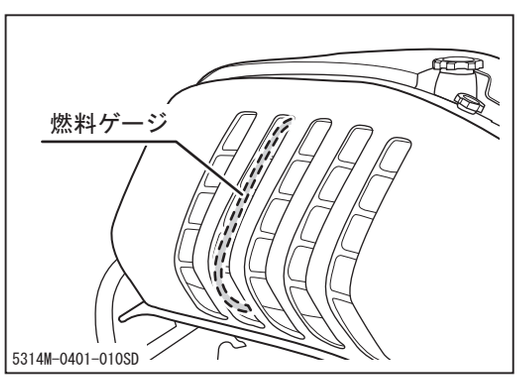
始業点検

運転前には必ず始業点検を行ってください。
点検の要領については**「定期点検表」**（☞30ページ）を参照してください。

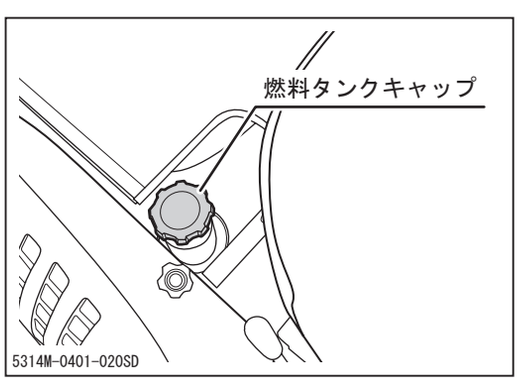
燃料の点検と補給

⚠ 警 告

- 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- 給油は油面上限（給油口内フィルタ底面）以下になるようにして、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。



1. 燃料ゲージを確認し、燃料が不足している場合は、燃料を補給します。



2. 燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。
3. 燃料タンクキャップを確実に閉めます。

アドバイス

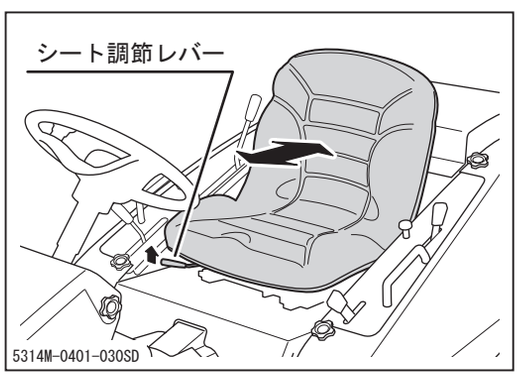
- 使用燃料：自動車用無鉛ガソリン
- 燃料タンク容量：15.0ℓ

シート位置の調節

⚠ 注 意

・シートの調節時に手や指をはさまないように十分注意してください。

・シートの調節後は、シートを前後に動かし、確実に固定されていることを確認してください。



1. シート調整レバーを上に引き、シートを前後にスライドさせて調節します。
2. 調節後、シート調整レバーを戻し、シートを確実に固定します。

アドバイス

・調節はシートから降りて行ってください。

運転のしかた

始動のしかた

⚠ 警 告

・エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。

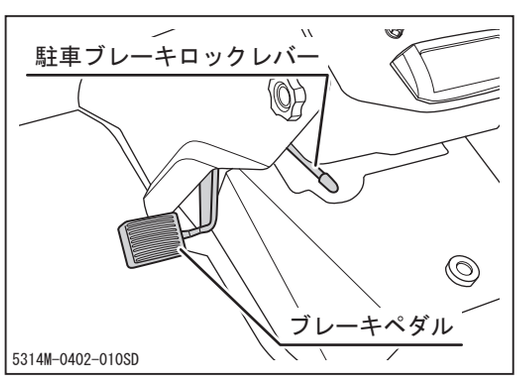
・始動は必ず乗車して行ってください。降車状態での始動は万一の場合に車両にひかれるおそれがあります。

⚠ 注 意

・エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」に回さないでください。スタータモータおよびエンジン破損の原因となります。

・5秒以上スタータモータを回さないでください。始動しない場合はメインスイッチを「切」に戻し、15秒以上休んでから再始動してください。

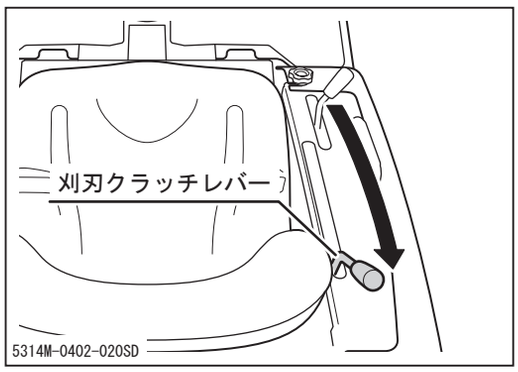
・冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンや油圧機器の寿命を短くすることになります。



1. ブレーキペダルがロックされていることを確認します。ロックされていない場合は、ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキロックレバーでロックします。

アドバイス

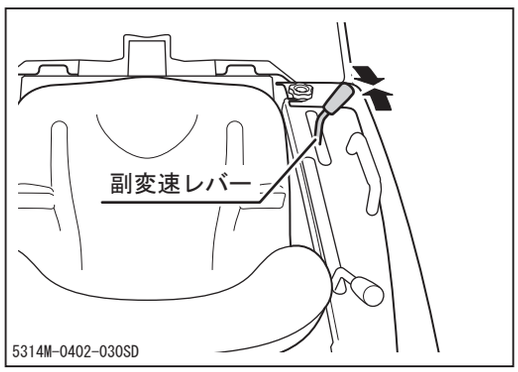
・本製品は始動安全装置を装備しているため、ブレーキペダルを踏み込まないとエンジンを始動できません。



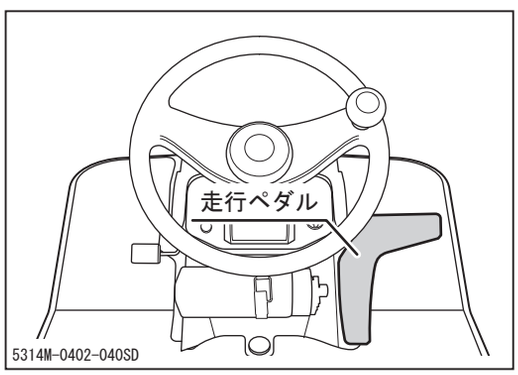
2. 刈刃クラッチレバーが「切」にあることを確認します。

アドバイス

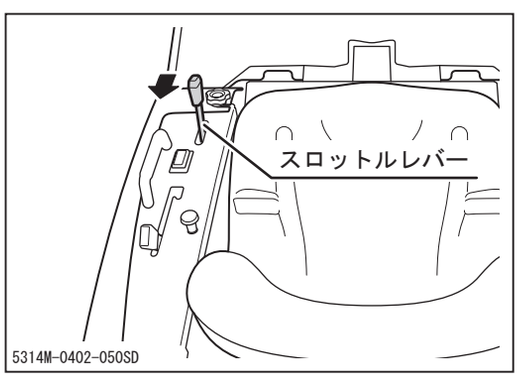
・本製品は始動安全装置を装備しているため、刈刃クラッチレバーが「切」にないとエンジンを始動できません。



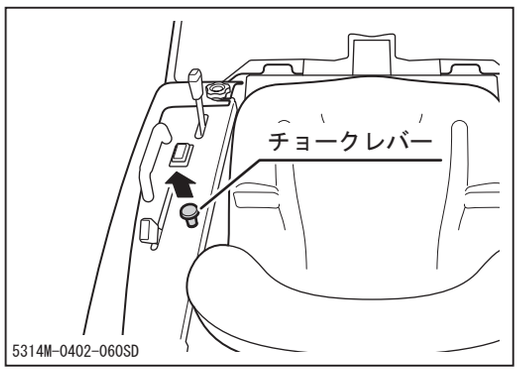
3. 副変速レバーが「中立」にあることを確認します。



4. 走行ペダルが「中立」にあることを確認します。



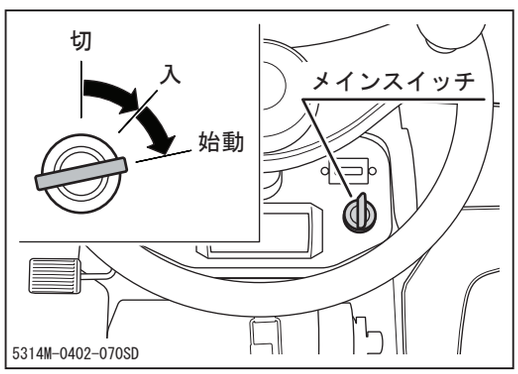
5. スロットルレバーを「 （高回転）」側に少し動かします。



6. チョークレバーを引きます。

アドバイス

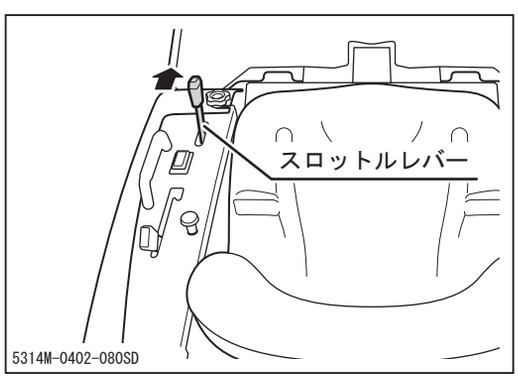
・エンジンが暖まっている場合はこの操作は必要ありません。



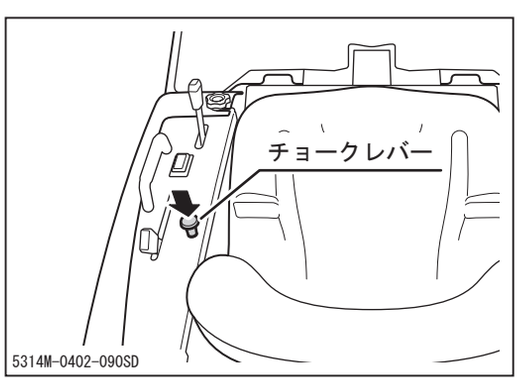
7. メインスイッチにキーを差し込みます。
8. メインスイッチを「始動」まで回し、エンジンを始動させます。始動後はすぐにキーから手を離してください。キーは自動的に「入」に戻ります。

アドバイス

・頻繁な再始動はなるべく避け、エンジンを始動したら、しばらく連続運転をして、バッテリを充電するようにしてください。



9. スロットルレバーを「🐢（低回転）」にします。



10. チョークレバーを戻します。
11. 約5分間、無負荷で暖機運転をします。

アドバイス

・エンジンが冷えているときにチョークレバーを戻すとエンジンが停止することがあります。
・購入後、最初の一週間（約40～50時間）はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

運転のしかた

⚠ 警　告

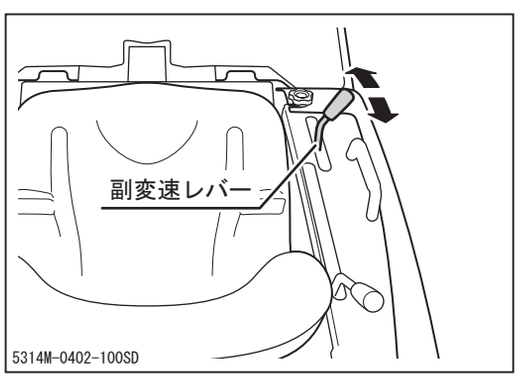
・運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

・発進時は必ず周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進させてください。

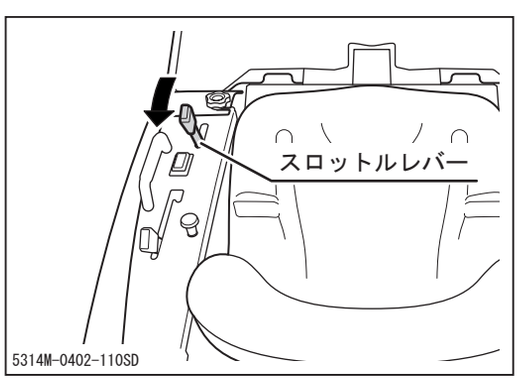
・旋回時は必ず周囲の安全を確認してください。

・急発進、急加速、急旋回を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

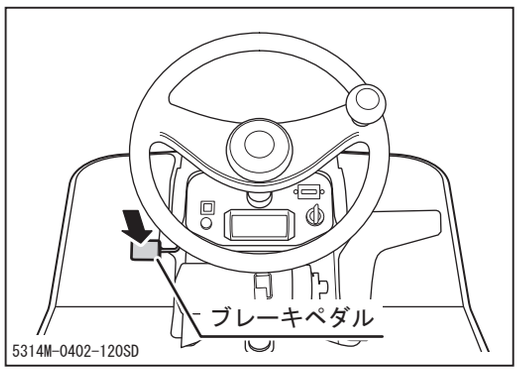
・走行中にメインスイッチを「切」にしないでください。



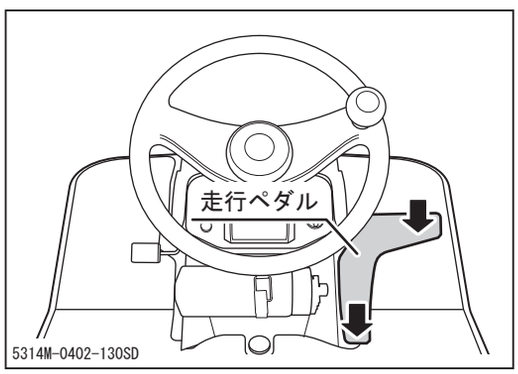
1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. 副変速レバーを「低」または「高」にします。



3. スロットルレバーを「 （高回転）」にして、エンジンの回転数を上げます。



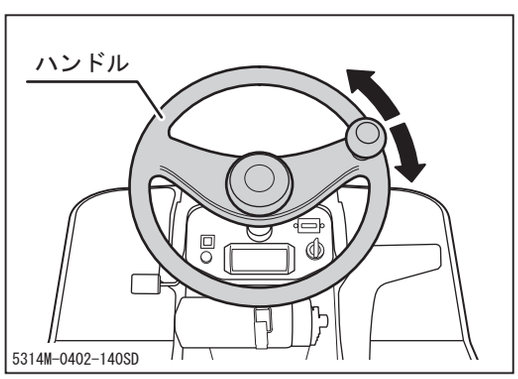
4. ブレーキペダルを奥まで踏み込み、駐車ブレーキロックレバーを解除します。



5. 走行ペダルを進行方向に徐々に踏み込み、車両を発進させます。

アドバイス

・走行ペダルを踏み込む量によって無段階に速度を調節することができます。



6. 旋回をするときは、ハンドルを旋回したい方向に回転させ、旋回します。

停止のしかた

⚠ 警　告

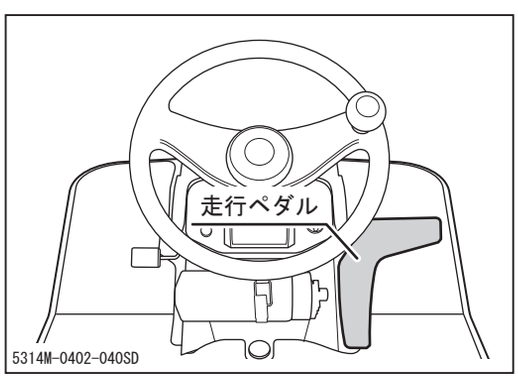
・急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

・停止の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には停止しないでください。

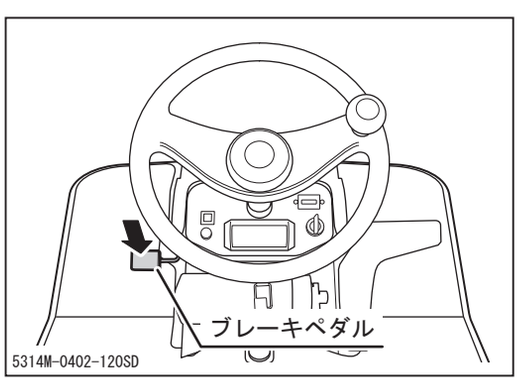
・刈刃クラッチを「切」にしても刈刃が惰性で回転している恐れがあります。本製品から離れるときは、メインスイッチを「切」の位置してから刈刃の停止を確認して降りてください。

⚠ 注　意

・走行ペダルを踏んだままブレーキペダルを踏まないでください。変速装置を破損するおそれがあります。



1. 走行ペダルを徐々に戻し、速度を落とします。
2. 走行ペダルから足を離します。



3. ブレーキペダルを踏み込んで、車両を完全に停止させます。

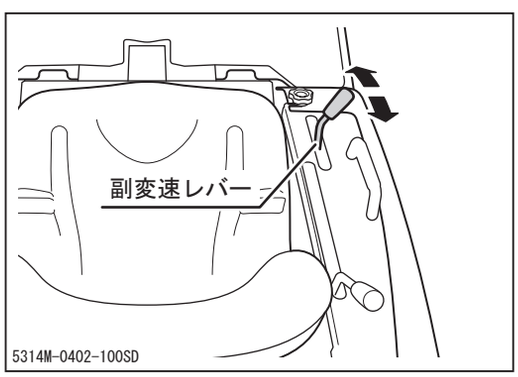
変速のしかた

⚠ 警 告

・変速操作は確実に行ってください。変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあります。

⚠ 注 意

・変速操作は車両を停止させてから行ってください。走行中に行うとトランスミッションを破損するおそれがあります。



1. 車両を確実に停止させます。
2. 副変速レバーを「低」または「高」に確実に入れます。

アドバイス

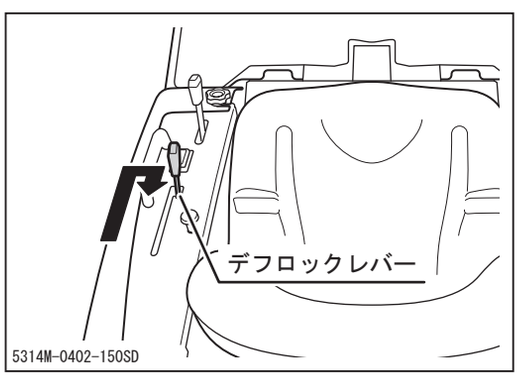
・各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞10ページ）を参照してください。

後輪スリップ時の回避のしかた

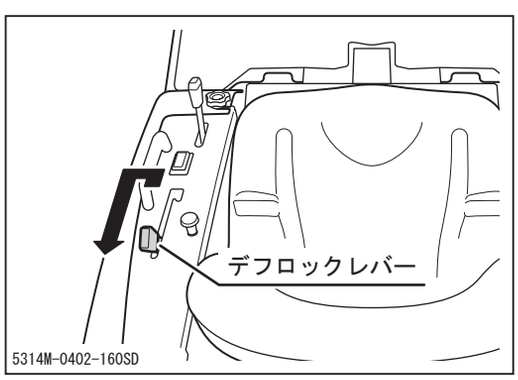
ぬかるみ等で後輪の片側がスリップする場合には、デフロックをすることでスリップを回避することができます。

⚠ 注 意

- **デフロックの操作は車両を停止させてから行ってください。走行中に行うとデファレンシャルギヤを破損するおそれがあります。**
- **通常走行時は必ずデフロックを「切」にしてください。デファレンシャルギヤを破損するおそれがあります。**



1. デフロックレバーを「入」にします。
2. 副変速レバーを「低」にします。
3. 車両をゆっくりと発進させ、ぬかるみ等を脱出します。



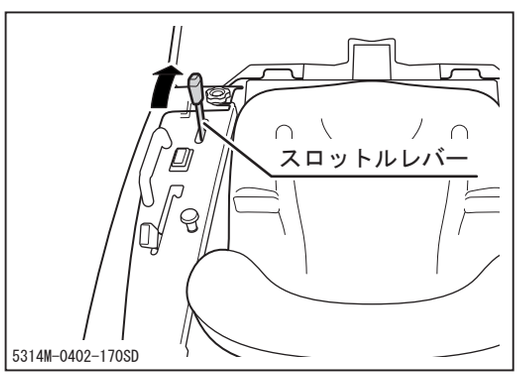
4. ぬかるみ等を脱出したら、デフロックレバーを「切」にします。

駐車のしかた

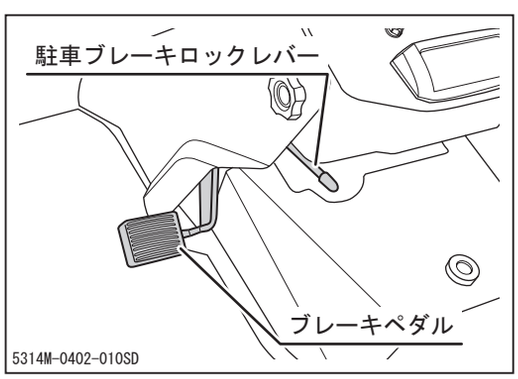
⚠ 警 告

・駐車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。

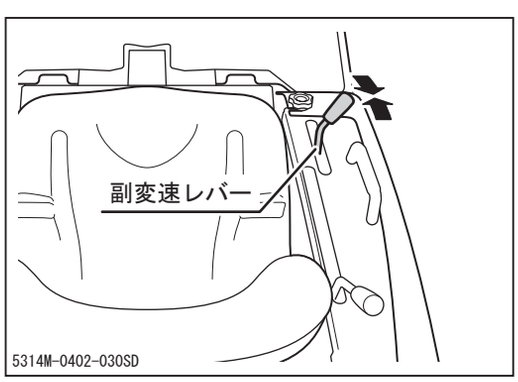
・傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。



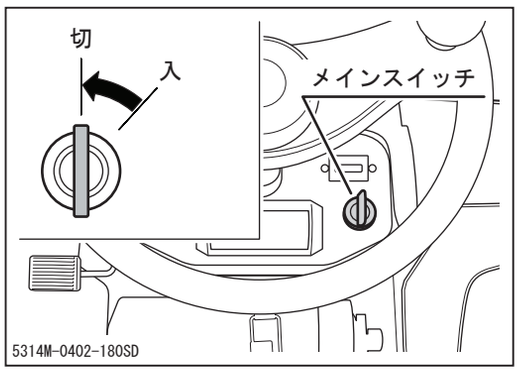
1. 車両を確実に停止させます。
2. スロットルレバーを「🐢（低回転）」にして、エンジンの回転数を下げます。



3. ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキロックレバーを引いてブレーキペダルをロックします。



4. 副変速レバーを「中立」にします。



5. メインスイッチを「切」にして、エンジンを停止させ、キーを抜き取ります。

作業のしかた

⚠ 危　険

・刈刃の回転中に刈刃カバーの下に手足を入れないでください。

⚠ 警　告

・作業時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

・小石等の異物の飛散により、人や動物、農作物、建築物、自動車等へ被害を及ぼさないように十分に注意して作業を行ってください。

・障害物の近くでの作業は、飛散した異物が跳ね返ってくる可能性があるので、十分に注意して作業を行ってください。

・刈刃カバーを開けたまま作業を行わないでください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。

・作業は前進で行ってください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。

・刈刃クラッチは作業直前に入れ、作業時以外は必ず「切」にしてください。

・溝や土手の端は作業を行わないでください。路肩が崩れるおそれがあります。特に降雨後や地震後は注意してください。

⚠ 注　意

・作業の前に必ず穴、障害物等を確認し、十分に注意して作業を行ってください。

・25° を超える斜面では作業を行わないでください。

・斜面での旋回は行わないでください。

・滑りやすい場所では作業を行わないでください。

⚠ 注　意

・ほこりの多い場所で作業を行う場合には、半日ごとにエアクリーナエレメントの清掃を行ってください。エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こします。

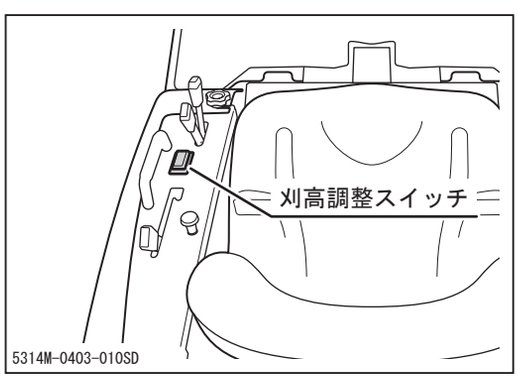
・刈刃が折損した場合には、ただちに新しい刈刃と交換してください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。

・刈刃に異物が巻き付いた場合には、ただちにエンジンを停止し、異物を取り除いてください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。

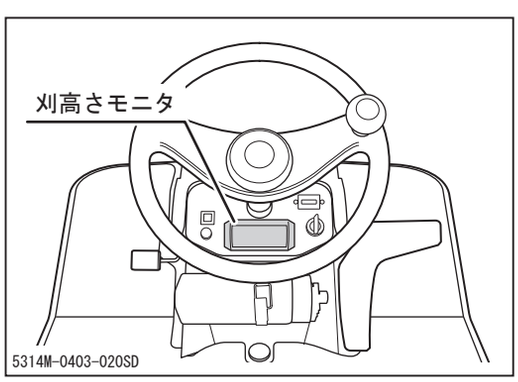
刈刃の点検

作業の前に刈刃の点検を行ってください。点検の方法は**「刈刃の点検・交換」**（☞50ページ）を参照してください。

刈高調整のしかた



1. 刈高調整スイッチの「低」または「高」を押し、刈高さを任意の位置に調整します。



2. 刈高さは刈高モニタに表示されます。

アドバイス

・刈高さ調節範囲：20㎜～100㎜
・刈高調整レバーを100㎜より上にすると刈刃クラッチレバーが入りません。
・刈高さの数値は目安です。地面の状態等により異なる場合があります。

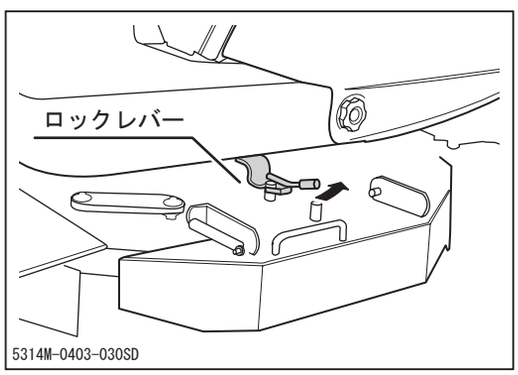
刈刃スライドのしかた

障害物等により車両を右側いっぱいに寄せることができない場合でも、刈刃をスライドさせることで作業をすることができます。

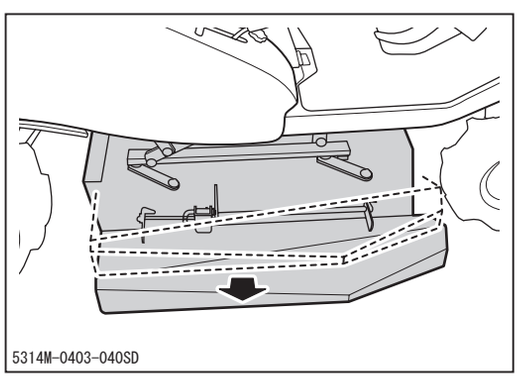
⚠ 注 意

・通常作業では刈刃をスライドさせずに作業してください。

・刈刃スライド時に手足を挟まないよう、十分に注意してください。

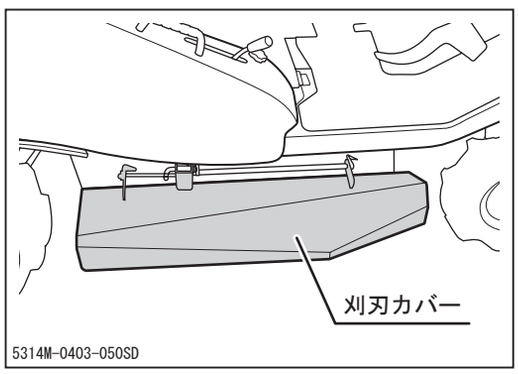


1. ロックレバーを解除します。

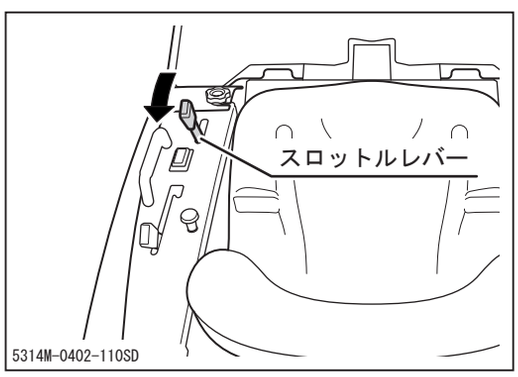


2. 刈刃カバーを右側にスライドさせます。
3. ロックレバーを戻し、刈刃カバーを確実に固定します。

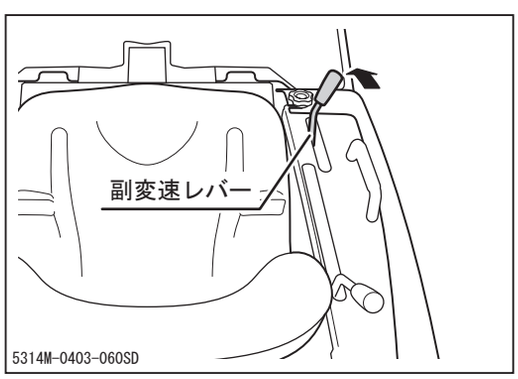
作業のしかた



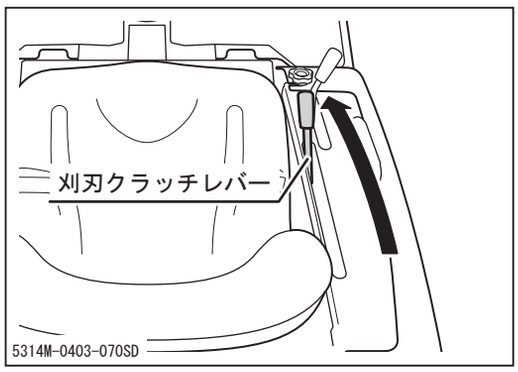
1. 刈刃カバーが閉じていることを確認します。



2. スロットルレバーを「 （高回転）」にして、エンジンの回転数を上げます。



3. 副変速レバーを「低」にします。
4. 刈高さを任意の位置に調整します。



5. 刈刃クラッチレバーを「入」にして、刈刃を回転させます。

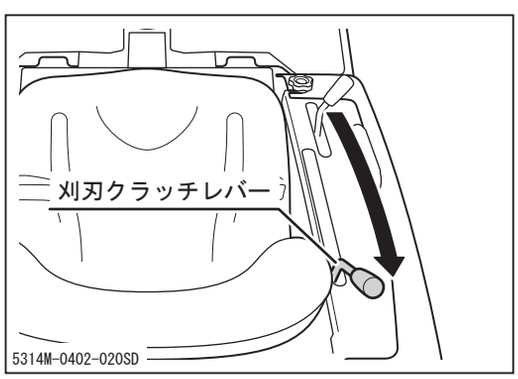
アドバイス

・刈刃カバーの位置が上限のときは、刈刃クラッチレバーは「入」になりません。

6. 車両を走行させて作業を行います。

アドバイス

・初めて作業を行う場合は、平坦地を選び、刈跡が少し重複するようにゆっくりと刈ってください。
・負荷が大きい場合には、速度を落として作業をするか、2回に分けて刈ってください。
・刈刃回転中に座席を離れると、安全装置が作動し、エンジンが停止します。



7. 刈刃を停止させるときは、刈刃クラッチレバーを「切」にして、刈刃を停止させます。
8. 刈刃カバーを上限まで上げます。

アドバイス

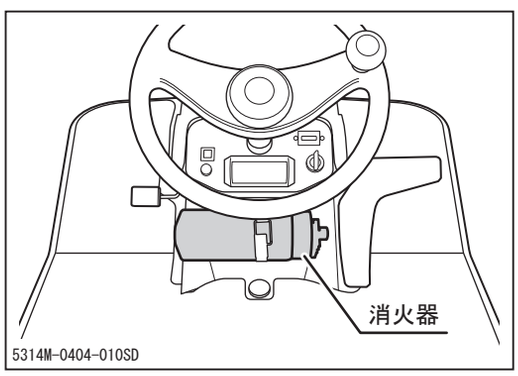
・刈刃クラッチレバーが「入」のとき、刈刃カバーを上限まで上げると、刈刃クラッチレバーが「切」になります。

消火器

⚠ 注 意

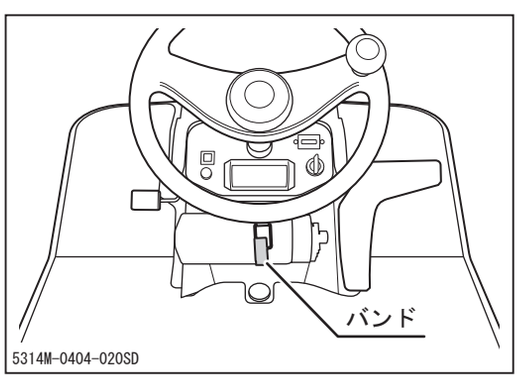
・消火器に貼付してある取扱方法・注意事項を読み、理解した上で、正しい取り扱いをしてください。

消火器の位置

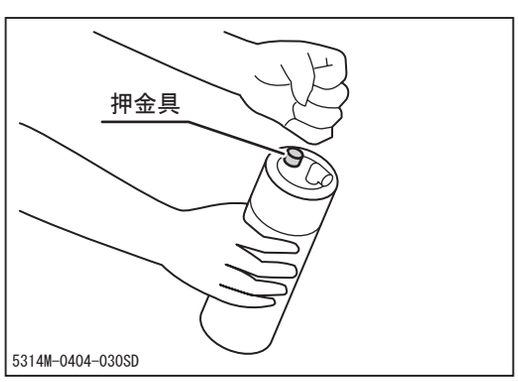


1. 消火器はハンドル下に装着されています。

消火器の使用方法



1. バンドを外し、消火器を取り外します。



2. ノズルを火元に向けます。
3. 押金具を強くたたき、消火薬剤を噴射します。

定期点検表

⚠ 注 意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。

・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社営業所）へ依頼してください。

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
原動機	始動性	エンジンの始動が容易で異音がないこと	○	○	○	
	回転の状態	アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数が正規の回転数であり、回転が円滑に続くこと			○	販売店に点検を依頼してください
		エンジンを加速した時にエンジンコントロールレバーの引っかかり、エンジン停止、ノッキングが起こらないこと	○	○	○	
	排気の状態	エンジンを十分に暖機した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音が正常であること	○	○	○	
		排気管、マフラ等からの排気漏れがないこと		○	○	
	エアクリーナ	ケースの亀裂、変形および接続管の緩みがないこと		○	○	
		エレメントに著しい汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	☞41ページ
	締め付け	シリンダヘッドおよびマニホールドの締め付け部からガス漏れがないこと			○	
	弁隙間	弁隙間が正規であること ※弁隙間の異常による異音がなく、エンジン回転に異常がなければこの検査を省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください
	圧縮圧力	圧縮圧力が正規であること ※アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください
	エンジンマウント	エンジンベースに亀裂または変形がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
原動機	潤滑装置	油量が適正で著しい汚れがないこと	○	○	○	☞39ページ
		ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等から著しい油漏れがないこと	○	○	○	
	燃料装置	燃料タンク、ホース、パイプ等から燃料漏れがないこと	○	○	○	
		燃料ホースに損傷または劣化がないこと	○	○	○	
		燃料フィルタに著しい汚れまたは詰まりがないこと		○	○	☞43ページ
		燃料タンク内に水および沈殿物がないこと		○	○	
	点火プラグ	電極に消耗がなく、カーボンの堆積がないこと		○	○	☞42ページ
	充電装置	正常に作動すること			○	販売店に点検を依頼してください
	バッテリ	電解液の量が規定範囲内にあること		○	○	☞56ページ
		端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○	
	配線	接続部に緩みがないこと		○	○	
		配線に損傷がないこと		○	○	
動力伝達装置	Vベルト	ベルトの張りが基準値以内であること		○	○	
		ベルトに著しい磨耗または損傷がないこと		○	○	
	トランスミッション	前・後進時に異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	☞45ページ
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	副変速	各変速位置に確実に入り作動が適正であること	○	○	○	
		レバー取付部に緩みまたはガタがないこと	○	○	○	
	HST	作動が適正であること	○	○	○	☞49ページ
		油量が適正で著しい汚れがないこと	○	○	○	☞47ページ
		ペダル取付部に緩みまたはガタがないこと	○	○	○	
走行装置	ハンドル	ハンドルを左右に回してハンドルが確実に切れること	○	○	○	
	タイヤホイール	タイヤの空気圧および溝の深さが規定値内であること	○	○	○	☞44ページ
		タイヤおよびホイールに亀裂、損傷または偏磨耗がないこと	○	○	○	
		タイヤの溝に金属片、石等の異物のかみ込みがないこと	○	○	○	
		ホイールボルトおよびハブナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		ホイールベアリング部にガタ、異音または異常発熱がないこと		○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
制動装置	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	☞49ページ
	駐車ブレーキ	駐車ブレーキ作動時に1/5勾配で停止状態を保持できること		○	○	
	ロッド リンク ワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○	
車体・安全装置等	車枠 および 車体	亀裂、変形または腐食がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	カバー	亀裂、変形または腐食がないこと	○	○	○	
		カバーの開閉またはロックに異常がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	マーク	注意、指示銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	
	前照灯 作業灯	正常に点灯すること	○	○	○	
		レンズに破損または水等の浸入がないこと	○	○	○	
刈取装置	刈取装置	刈刃に亀裂、損傷がないこと	○	○	○	☞50ページ
		刈刃取付ボルトに亀裂、損傷がないこと	○	○	○	☞50ページ
		刈刃カバーに亀裂、損傷がないこと	○	○	○	
		ゴム垂れに損傷、脱落のないこと	○	○	○	
		刈刃駆動ベルトの張りが基準値以内であること	○	○	○	☞53ページ
		刈刃駆動ベルトに著しい磨耗または損傷がないこと	○	○	○	☞53ページ
		刈刃ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	☞54ページ
		給脂が十分であること		○	○	☞34ページ

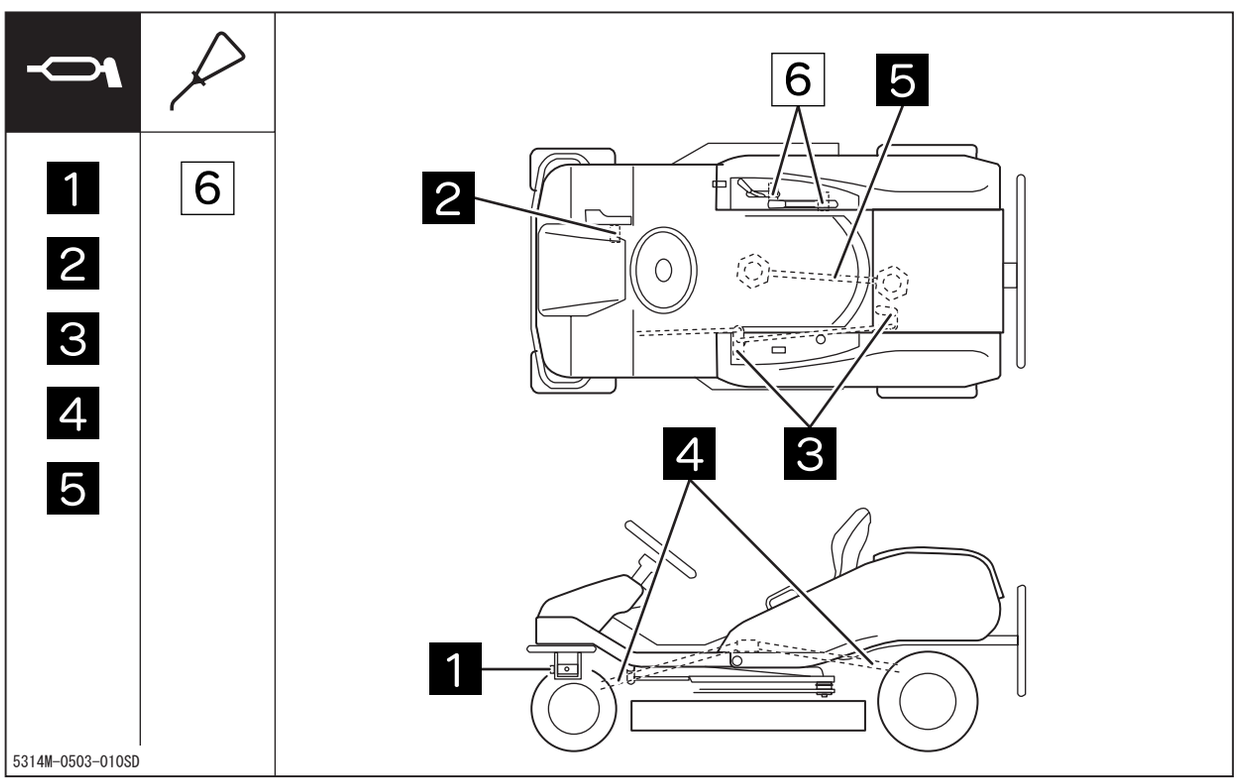
給油・給水一覧表

項　　目	補　給（交　換）時　期	推　　奨　　品	容　量
燃　　料	随時	自動車用無鉛ガソリン	15.0ℓ
エンジンオイル	補給　毎日点検し不足時に補給 交換　初回：8時間 2回目以降：50時間毎	ガソリンエンジンオイル API分類　SE級以上 SAE分類　10W-30	1.5ℓ 1.7ℓ*1
トランスミッションオイル	交換　初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	2.0ℓ
ＨＳＴオイル	随時	エンジンオイル SAE分類　20W-50 モービルSHC629	3.0ℓ
刈刃カウンターケースオイル	随時	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	0.39ℓ
刈刃上部ケースオイル	随時	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	0.83ℓ
フロントデフオイル（センター）	随時	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	0.36ℓ
フロントナックルオイル（両サイド）	随時	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	0.05ℓ
バッテリ液	補給　50時間毎に点検し不足時に補給	蒸留水	－

*1　オイルフィルタカートリッジ交換時

給脂・注油一覧表

給脂・注油箇所		補給時期	推奨品	容量
1	前車軸中央	半年毎	シャーシグリース	−
2	走行ペダル支点	半年毎	シャーシグリース	−
3	ステアリングロッド(4WS)支点	半年毎	シャーシグリース	−
4	ドライブシャフト(4WD)	半年毎	シャーシグリース	−
5	刈刃ドライブシャフト	半年毎	シャーシグリース	−
6	副変速レバー・刈刃クラッチ支点	半年毎	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	−



消耗部品（交換部品）一覧表

⚠ 注　意

・消耗部品の交換時は必ず当社指定部品を使用してください。

項　　目	部品番号	交換インターバル	個数
エンジン			
オイルフィルタカートリッジ	ZE49065-2078	100時間毎	1
エアクリーナエレメント（外側）	ZE11013-7009	50時間毎に点検し、不具合があれば交換	1
エアクリーナエレメント（内側）	ZE11013-7010	50時間毎に点検し、不具合があれば交換	1
点火プラグ	ZE92070-7004	100時間毎に点検し、不具合があれば交換	2
ワイヤ（エンジンコントロール）	53100102000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（チョーク）	53100105000	不具合があれば交換	1
燃料系統			
ホース（燃料）	53100344000	2年毎	1
走行装置			
Ｖベルト（ＨＳＴ）	08521300040	不具合があれば交換	1
タイヤ（前輪）	53042204000	不具合があれば交換	2
タイヤ（後輪）	53042301100	不具合があれば交換	2
チューブ（前輪）	53042205000	不具合があれば交換	2
チューブ（後輪）	42012543000	不具合があれば交換	2
ブレーキライニング	72072157100	不具合があれば交換	2
ワイヤ（ブレーキ）	53103315000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（デフロック）	53103402000	不具合があれば交換	1
刈取装置			
刈刃セット	Z3104205010	不具合があれば交換	1
	Z3104205050	不具合があれば交換	5
刈刃セット（一刀斎）	Z3096201010	不具合があれば交換	1
	Z3096201030	不具合があれば交換	3
	Z3096201050	不具合があれば交換	5
	Z3096201100	不具合があれば交換	10
刈刃セット（一刀斎アンダーカット）	Z3096203010	不具合があれば交換	1
	Z3096203030	不具合があれば交換	3
	Z3096203050	不具合があれば交換	5
	Z3096203100	不具合があれば交換	10
刈刃セット（菊一文字）	Z3094206010	不具合があれば交換	1
	Z3094206030	不具合があれば交換	3
	Z3094206050	不具合があれば交換	5
	Z3094206100	不具合があれば交換	10
Ｖベルト（刈刃駆動）	08581300035	不具合があれば交換	1
刈刃ブレーキ	53104301000	不具合があれば交換	1

項　　目	部品番号	交　換　イ　ン　タ　ー　バ　ル	個　数
刈取装置			
ワイヤ（刈刃クラッチ）	53102406000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（刈刃ブレーキ）	53103315000	不具合があれば交換	1
刈刃ステー	53044201000	不具合があれば交換	1
刈刃交換工具（TOSHIHARU）	53139004000		
電装品			
バッテリ	37053901000	不具合があれば交換	1
ヒューズ15A(青)	09801001504	不具合があれば交換	2
ヒューズ20A(黄)	09801002003	不具合があれば交換	1
ライトバルブ	09808122304	不具合があれば交換	2

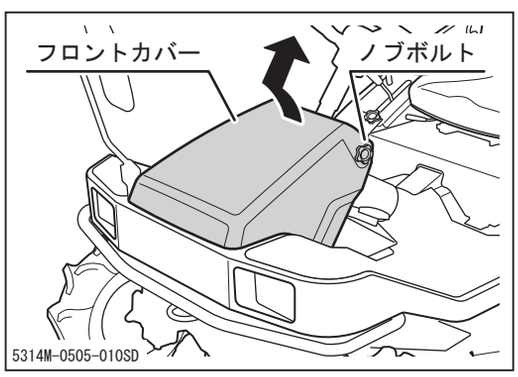
カバーの開けかたおよび取り外しかた

⚠ 注　意

・カバーの開閉時および取り付け・取り外し時に手や指をはさまないように十分注意してください。

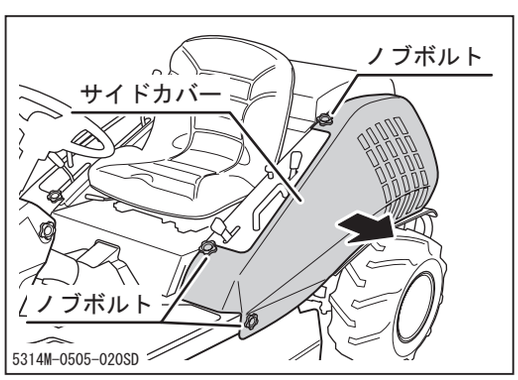
・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

フロントカバーの取り外しかた



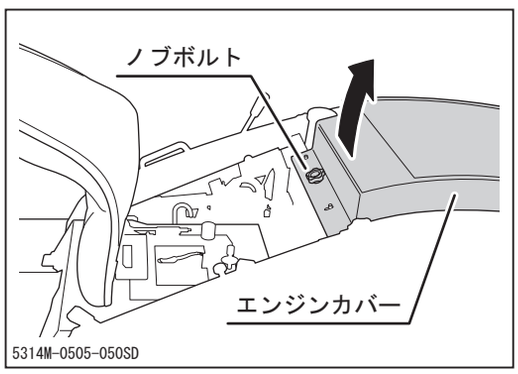
1. ノブボルト（2ヶ所）を取り外します。
2. フロントカバーを取り外します。

サイドカバーの取り外しかた



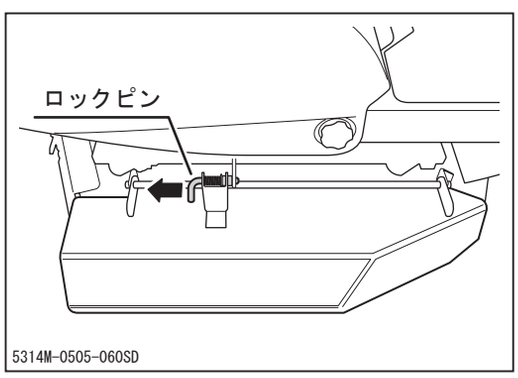
1. ノブボルト（3ヶ所）を緩めます。
2. サイドカバーを取り外します。

エンジンカバーの開けかた

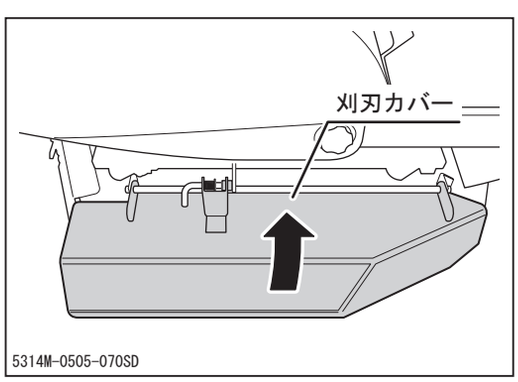


1. ノブボルトを取り外します。
2. エンジンカバーを開けます。

刈刃カバーの開けかた



1. ロックピンを引き、ロックを解除します。



2. ロックピンを引いたまま、カバーを持ち上げます。
3. ロックピンを戻し、カバーを確実に固定します。

エンジン

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・エンジン停止直後はエンジン各部およびエンジンオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

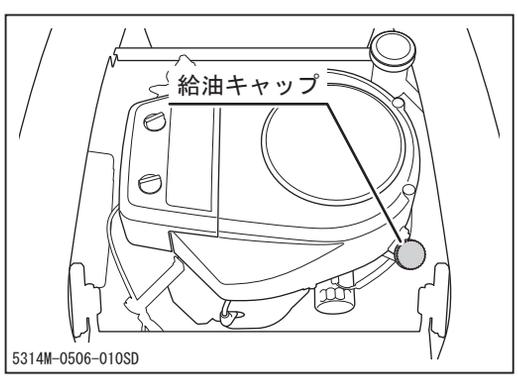
エンジンオイルの点検・補給・交換

⚠ 注　意

・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

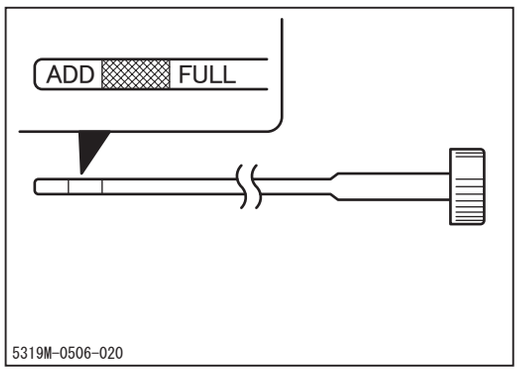
アドバイス

・オイル量はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。
・指定オイル：エンジンオイル、API分類　SE級以上、SAE分類　10W-30
・オイル量：1.5ℓ（オイルフィルタカートリッジ交換時は1.7ℓ）

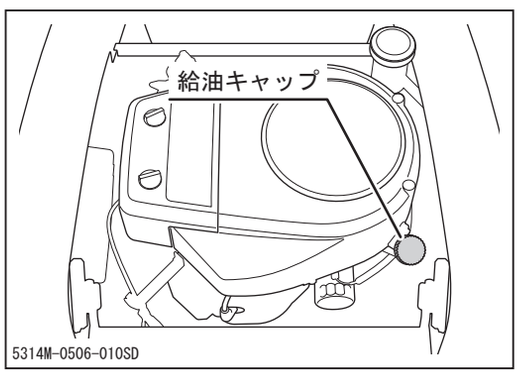


点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. エンジンカバーを開けます。
3. 給油キャップを取り外し、オイルを拭き取ります。
4. 給油キャップを給油口にねじ込まずに差し込み、再び引き抜きます。

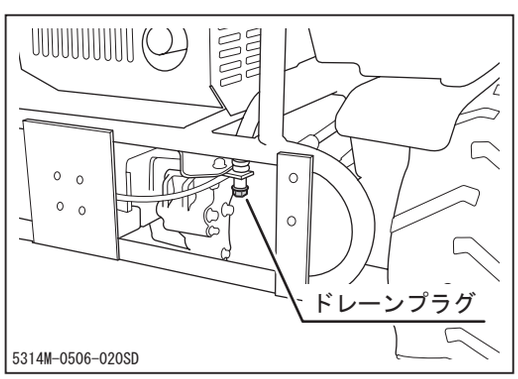


5. オイル量を目視点検し、オイルレベルゲージの「ADD」と「FULL」の間にあることを確認します。「ADD」より少ない場合は補給します。
6. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。
7. 給油キャップを確実に取り付けます。
8. エンジンカバーを閉めます。



補給

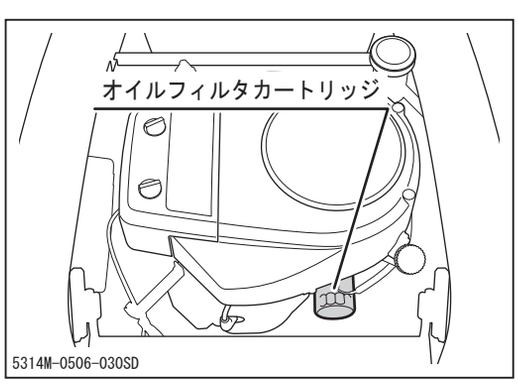
1. エンジンカバーを開けます。
2. 給油キャップを取り外します。
3. 給油口より指定のオイルを補給します。
4. オイル量を点検し、オイルレベルゲージの「ADD」と「FULL」の間にあることを確認します。
5. 給油キャップを確実に取り付けます。
6. エンジンカバーを閉めます。



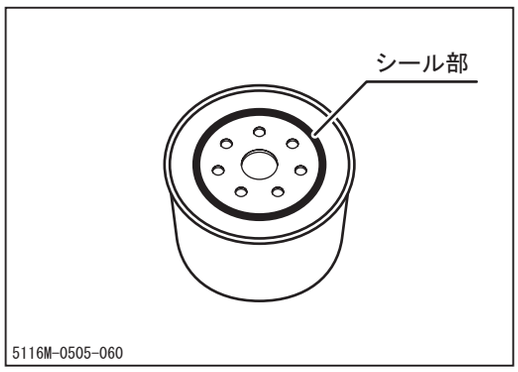
交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
3. ドレーンプラグを取り付けます。
4. オイルを補給します。

オイルフィルタカートリッジの交換



1. オイルを排出します。
2. オイルフィルタカートリッジ周辺を清掃します。
3. オイルフィルタレンチを使用してオイルフィルタカートリッジを取り外します。
4. エンジン側のフィルタハウジングベースを清掃します。

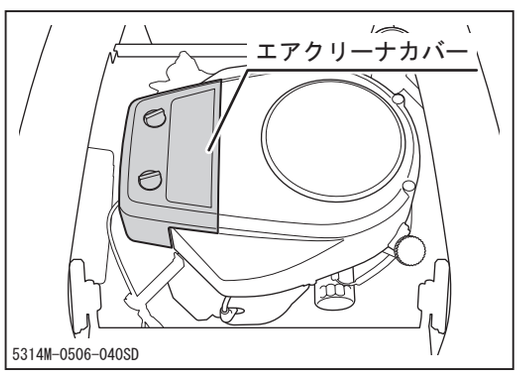


5. 新品のオイルフィルタカートリッジのシール部にきれいなエンジンオイルを薄く塗布します。
6. オイルフィルタカートリッジを取り付け、手でいっぱいに締め付けます。
7. エンジンオイルを補給します。
8. エンジン始動後、取り付け部からオイルの漏れがないか確認します。

エアクリーナの清掃・交換

⚠ 注　意

・エレメントの清掃は毎日行ってください。エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こします。

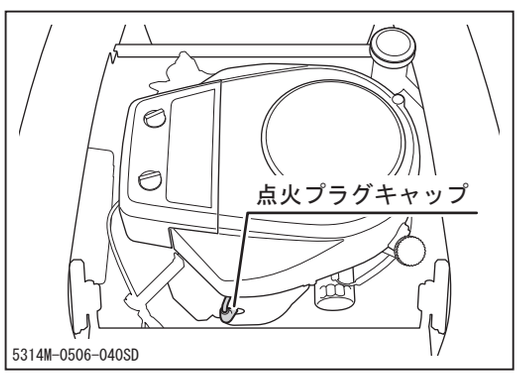


1. エンジンカバーを開けます。
2. エアクリーナカバーを取り外します。
3. エアクリーナエレメントを取り外します。
4. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、エアクリーナエレメントの清掃・交換を行います。
5. エアクリーナエレメントを取り付け、エアクリーナカバーを取り付けます。
6. エンジンカバーを閉めます。

点火プラグの点検・清掃・交換

⚠ 注 意

・点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。



1. エンジンカバーを開けます。
2. 点火プラグキャップ、点火プラグを取り外します。
3. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、点火プラグの点検・清掃・交換を行います。
4. 点火プラグキャップ、点火プラグを取り付けます。
5. エンジンカバーを閉めます。

冷却系統の清掃

1. エンジンカバーを開けます。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、ファンハウジングを取り外し、冷却フィンの清掃を行います。
3. エンジンカバーを閉めます。

燃料系統

⚠ 警　告

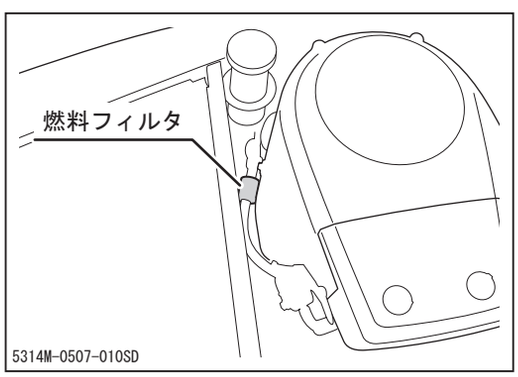
・作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。

・燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。

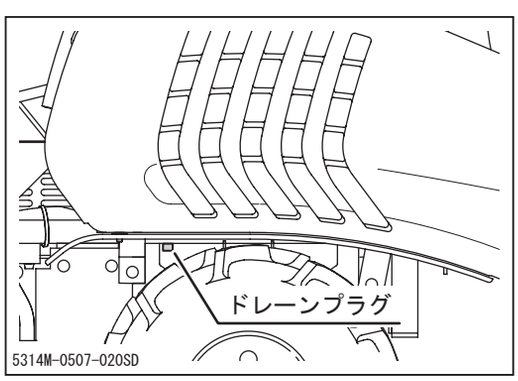
・廃油は適切な処理をしてください。

燃料フィルタの点検



1. エンジンカバーを開けます。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、燃料フィルタを点検します。
3. エンジンカバーを閉めます。

燃料タンクからの燃料の抜きかた



1. 燃料を抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、燃料を抜き取ります。

キャブレタからの燃料の抜きかた

1. 燃料を抜き取る適当な容器を用意します。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、キャブレタから燃料を抜き取ります。

走行装置

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

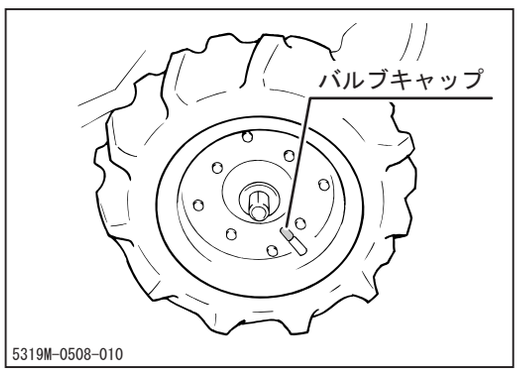
・エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

タイヤ空気圧の点検・調整

⚠ 注　意

・タイヤは必ず指定の空気圧で使用してください。異常磨耗や損傷のおそれがあります。



1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. バルブキャップを取り外します。
3. タイヤの空気圧を点検し、標準値でない場合は調整します。
4. バルブキャップを取り付けます。

	タイヤサイズ	空気圧標準値 KPa(kgf/cm²)
前　　輪	4.00-4	240(2.4)
後　　輪	17×8.00-8	240(2.4)

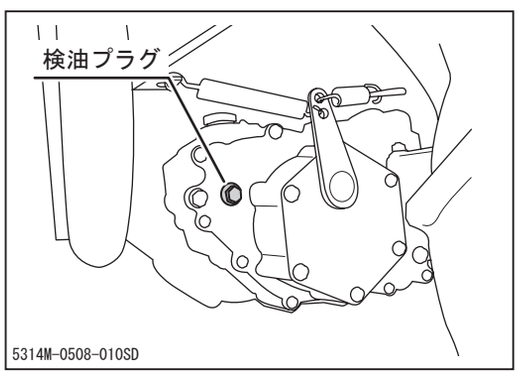
トランスミッションオイルの点検・補給・交換

⚠ 注　意

・オイルの補給がおろそかになると、トランスミッション故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

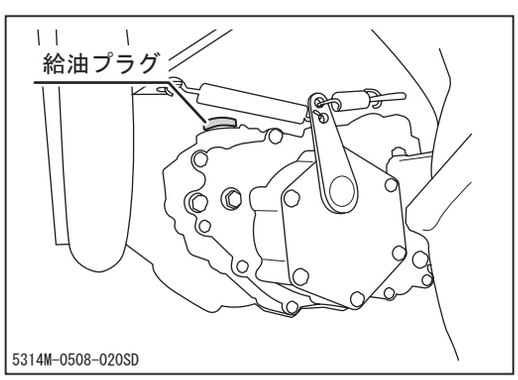
アドバイス

・指定オイル：ギヤオイル、API分類　GL4または5、SAE分類　#80
・オイル量：2.0ℓ



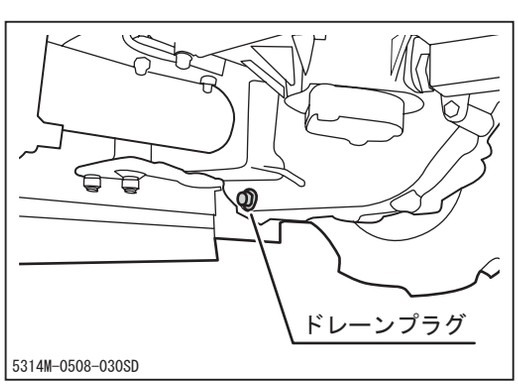
点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. 検油プラグを取り外します。
3. オイル量が検油口まで達しているか点検し、達していない場合は補給します。
4. 検油プラグを取り付けます。



補給

1. 給油プラグを取り外します。
2. 検油プラグを取り外します。
3. 給油口より指定のオイルを補給します。
   検油口からオイルが出てくるまで補給します。
4. 検油プラグを取り付けます。
5. 給油プラグを取り付けます。



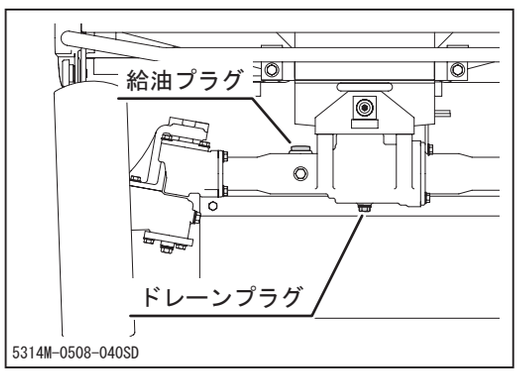
交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
3. ドレーンプラグを取り付けます。
4. オイルを補給します。

フロントデフオイルの点検・交換

アドバイス

・指定オイル：ギヤオイル、API分類　GL4または5、SAE分類　#80
・オイル量：0.36ℓ



点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. 給油プラグを取り外します。
3. オイルの汚れについて目視点検し、汚れがひどい場合は交換します。
4. 給油プラグを取り付けます。

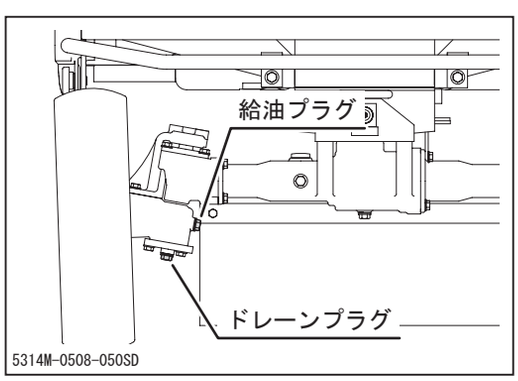
交換

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
4. ドレーンプラグを取り付けます。
5. 給油プラグを取り外します。
6. 給油口より指定のオイルを補給します。
7. 給油プラグを取り付けます。

フロントナックルオイルの点検・交換

アドバイス

・指定オイル：ギヤオイル、API分類　GL4または5、SAE分類　#80
・オイル量：0.05ℓ



点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. 給油プラグを取り外します。
3. オイルの汚れについて目視点検し、汚れがひどい場合は交換します。
4. 給油プラグを取り付けます。

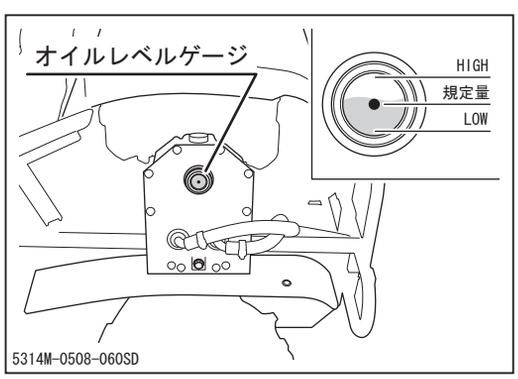
交換

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
4. ドレーンプラグを取り付けます。
5. 給油プラグを取り外します。
6. 給油口より指定のオイルを補給します。
7. 給油プラグを取り付けます。

ＨＳＴオイルの点検・補給・交換

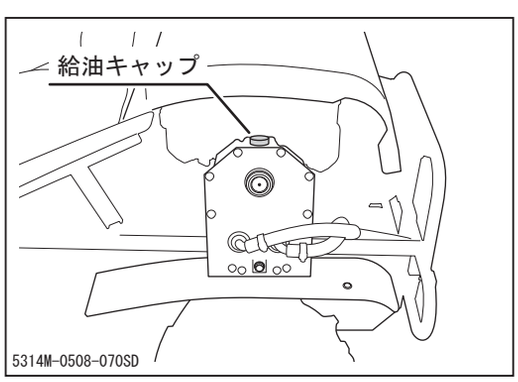
アドバイス

- **オイル量の点検はエンジン始動前かＨＳＴオイルが十分冷えてから行ってください。エンジン停止直後はオイルが膨張しており、正確なオイル量が点検できません。**
- **指定オイル：エンジンオイル、SAE分類　20W-50、モービルSHC629**
- **オイル量：3.0ℓ**



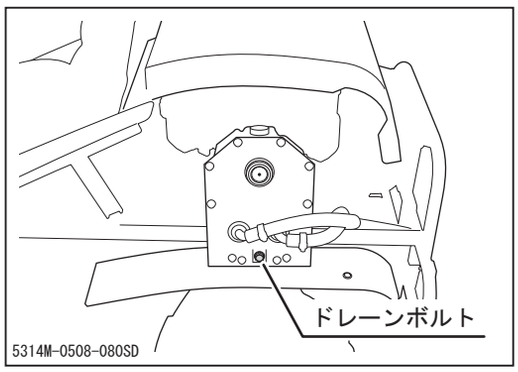
点検

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. 左サイドカバーを取り外します。
3. オイルタンクのオイルレベルゲージを目視点検し、オイルの量および汚れを確認します。
4. オイル量がHIGHとLOWの間にあることを確認します。不足している場合は補給します。
5. オイルの汚れがひどい場合は交換します。
6. 左サイドカバーを取り付けます。



補給

1. 左サイドカバーを取り外します。
2. 給油キャップを取り外します。
3. 給油口より指定のオイルを補給します。
4. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
5. 給油キャップを確実に取り付けます。
6. 左サイドカバーを取り付けます。



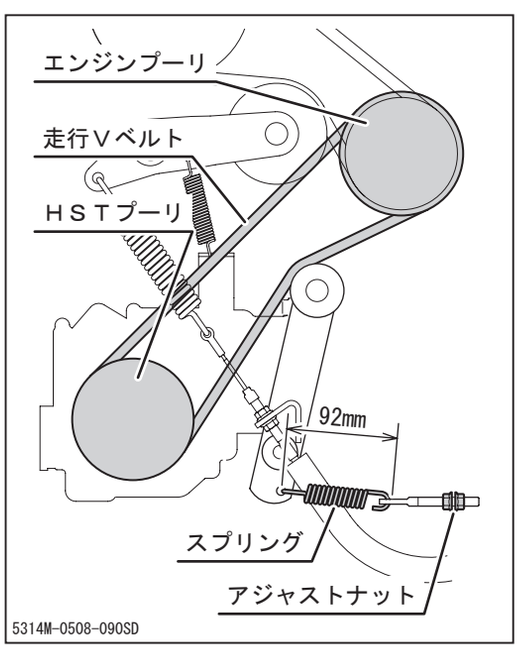
交換

1. 左サイドカバーを取り外します。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
4. ドレーンプラグを取り付けます。
5. オイルを補給します。
6. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
7. 左サイドカバーを取り付けます。

走行Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注　意

・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命が短くなります。



点検

1. Ｖベルトの張りを点検します。スプリングの長さが約92㎜であるか点検します。適正でない場合には調整します。
2. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。

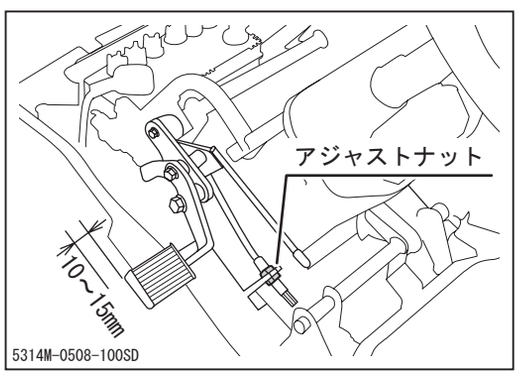
調整

1. スプリングの長さが約92㎜になるようにアジャストナットで調整します。

ブレーキの点検・調整

⚠ 警　告

・ブレーキの効きが悪くなった場合は、すぐに点検・調整をしてください。



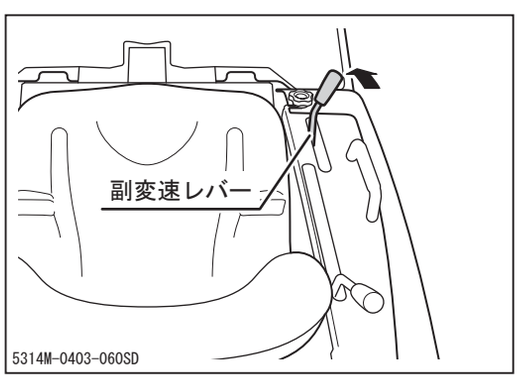
点検

1. ブレーキペダルの遊びが先端で10～15㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合には調整します。

調整

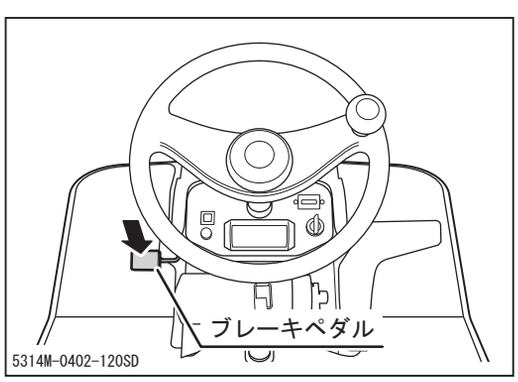
1. ブレーキペダルの遊びが先端で10～15㎜の範囲にになるようにアジャストナットで調整します。

ＨＳＴの中立の点検



点検

1. 水平な場所でエンジンを始動します。
2. 副変速を「低」に入れます。



3. ブレーキペダルを奥まで踏み込み、駐車ブレーキロックレバーを解除します。
4. ブレーキから足を離し、車両が停止していることを確認します。車両が動く場合は販売店に調整を依頼してください。

刈取装置

⚠ 警 告

・作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・エンジン停止直後は各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

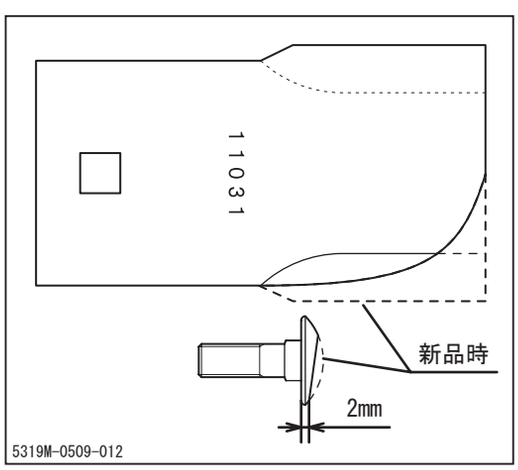
刈刃の点検・交換

⚠ 注 意

・刈刃が折損した場合は、すぐに新しい刈刃と交換してください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。

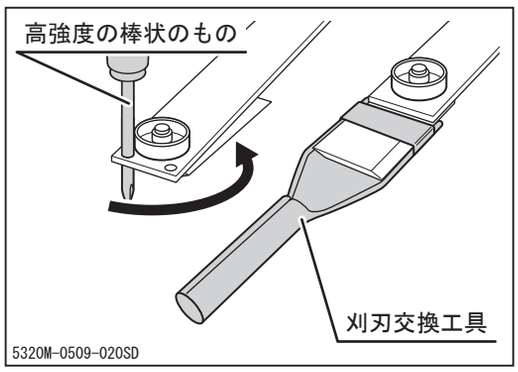
・刈刃を交換する場合は、全数交換をしてください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。

・刈刃の取扱時は刈刃交換工具（別売）を使用するか、厚い手袋や厚い布で刃先を包んで慎重に取り扱ってください。



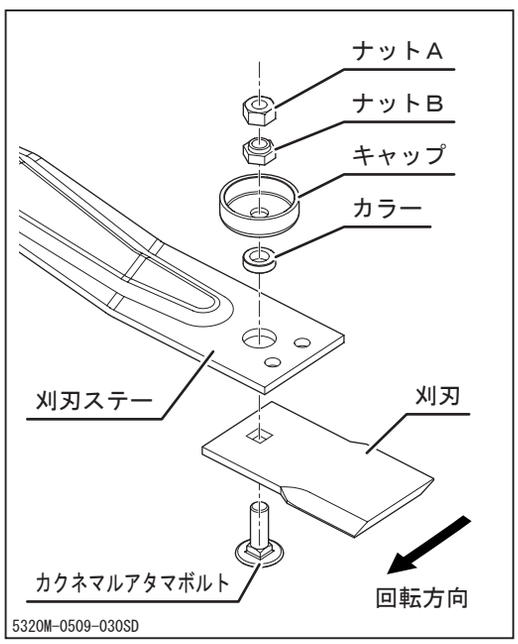
点検

1. 刈刃カバーを開けます。
2. 刈刃、ボルトの磨耗具合および折損や脱落を点検します。
3. 刈刃、ボルトに磨耗や変形、破損がある場合は新品に交換します。ボルトの頭が2㎜になると磨耗限度ですので交換してください。
4. 刈刃、ボルトに脱落がある場合は新品を取り付けます。
5. 刈刃カバーを閉めます。



交換

1. 刈刃カバーを開けます。
2. 刈刃交換工具（別売）または高強度の棒状のもの（ドライバー等）を使用して刈刃を固定します。
   刈刃交換工具については販売店に問い合わせてください。



3. ナットA・ナットBの順に外し、刈刃を取り外します。
4. 刈刃ステーの下に新しい刈刃を重ねて、下側からカクネマルアタマボルトを通します。
5. カラー・キャップをカクネマルアタマボルトに通します。
6. 刈刃交換工具（別売）または高強度の棒状のもの（ドライバー等）を使用して刈刃を固定します。
7. ナットBを取り付け、規定トルクにて締付けます。

アドバイス

・締め付け規定トルク
M12：44.1～53.9N･m（450～550kgf･cm）

8. ナットAを取り付けます。手締めして回らなくなった後、約１回転締め付けます。

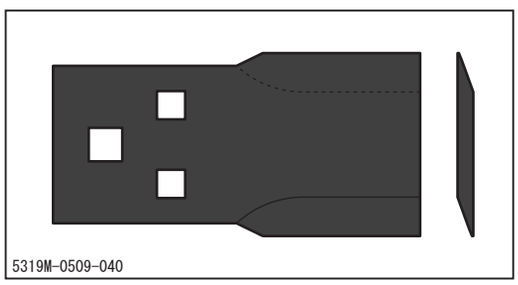
アドバイス

・ナットAは上記の方法で十分なロック効果が得られます。

9. 刈刃カバーを閉めます

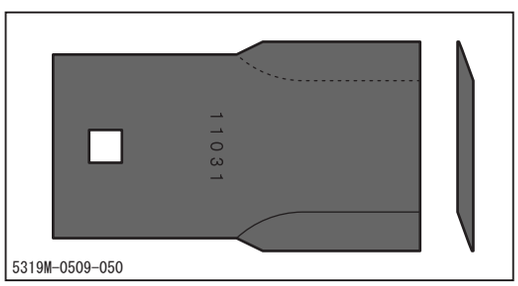
交換用刈刃の種類

目的や使用状況に合わせて4種類の専用刈刃を用意しています。



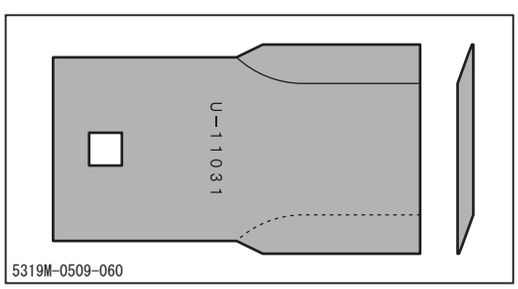
黒

- フリー刃、固定刃（別売りのボルトを使用）のどちらにも使用可能で汎用性の高い刈刃。
- 固定刃にしてやわらかい草を刈るのに適している。



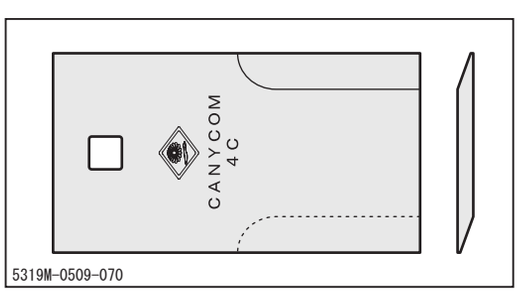
赤（一刀斎）

- 標準装備品の刈刃。



青（一刀斎アンダーカット）

- 赤（一刀斎）に対し表裏逆に刃を付け、耐久性を向上させた刈刃。
- かたい草を刈るのに適している。
- 刃が逆向きのため刈高さが約5㎜高くなる。



黄（菊一文字）

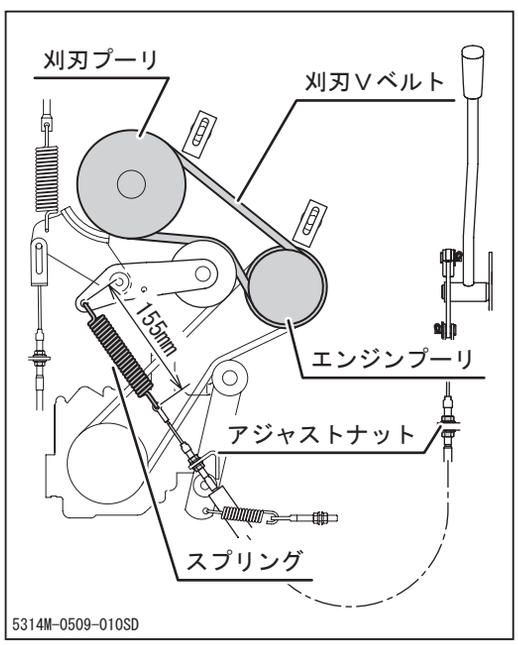
- 青（一刀斎アンダーカット）を強化し、耐久性をさらに向上させた刈刃。
- かたい草を刈るのに適している。
- 刃が逆向きのため刈高さが約5㎜高くなる。

	黒	赤（一刀斎）	青(一刀斎ｱﾝﾀﾞｰｶｯﾄ)	黄（菊一文字）
草　　質	やわらかい草		かたい草	
刈　高　さ	0 ～ 65㎜		5 ～ 70㎜	
耐　久　性	低	⟷		高

刈刃Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注　意

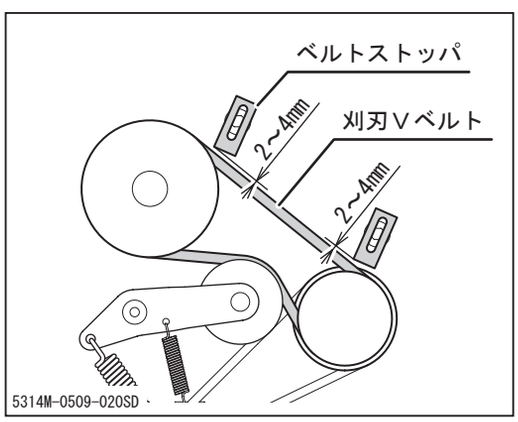
・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップし、作業能力が低下します。また、ベルトの寿命が短くなります。



点検・調整

1. 刈刃クラッチを「入」にします。
2. Ｖベルトの張りを点検します。スプリングの長さが約155㎜であるか点検します。適正でない場合にはアジャストナットで調整します。
3. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
4. 刈刃クラッチを「切」にします。

ベルトストッパの点検・調整



点検・調整

1. 刈刃クラッチを「入」にします。
2. Ｖベルトとベルトストッパの間隔を点検します。間隔が約2～4㎜であるか点検します。適正でない場合には調整します。
3. 刈刃クラッチを「切」にします。

刈刃ブレーキの点検・調整

⚠ 危　険

・刈刃の回転中に刈刃カバーの下に手足を入れないでください。

⚠ 警　告

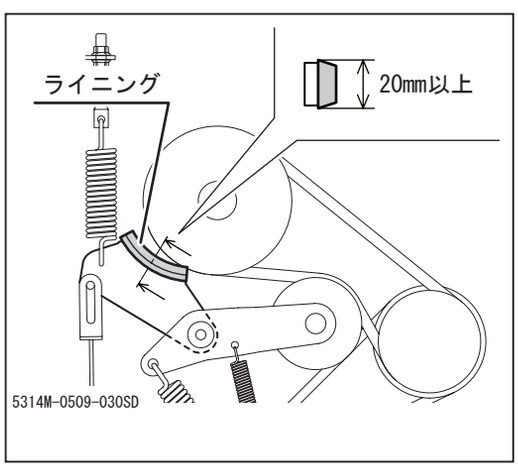
・点検時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

・刈刃カバーを開けたまま点検を行わないでください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。

・刈刃ブレーキの効きが悪くなってきた時はすぐに刈刃ブレーキの点検を行ってください。

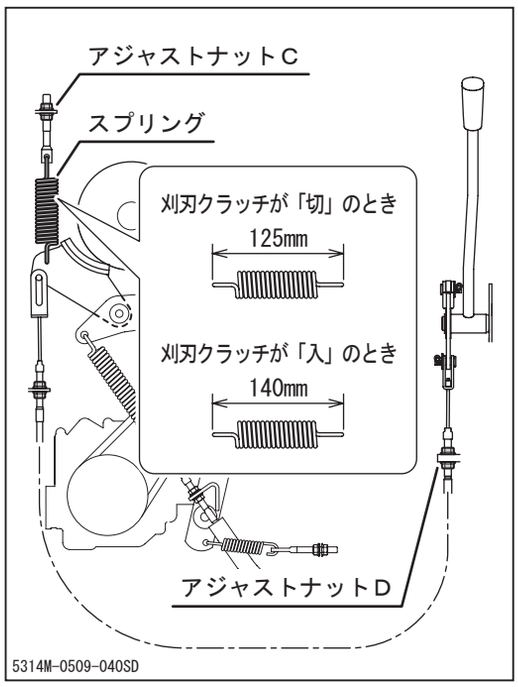
点検

1. エンジンを始動します。
2. エンジンコントロールレバーを「 （高回転）」にして、エンジンの回転数を上げます。
3. 刈刃クラッチを「入」にして、刈刃を回転させます。
4. 刈刃クラッチを「切」にして、刈刃が5秒以内に停止することを確認します。停止しない場合は刈刃ブレーキを調整します。
5. 車両を駐車し、エンジンを停止します。



ライニングの点検

1. ライニングの幅が20㎜以上あるか点検をします。20㎜以下の場合は刈刃ブレーキを交換します。交換は販売店へ依頼してください。



調整

1. 刈刃クラッチを「切」にします。
2. スプリングの長さが約125mmになるようにアジャストナットCで調整します。
3. 刈刃クラッチを「入」にします。
4. スプリングの長さが約140mmになるようにアジャストナットDで調整します。
5. 刈刃ブレーキの点検を行ない、5秒以内に刈刃が停止することを確認します。

電装品

⚠ 警 告

・作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

バッテリ液の点検・補給・充電

⚠ 警 告

・バッテリ液量が「LOWER LEVEL」以下になったままで使用または充電をしないでください。バッテリの寿命を著しく縮めます。また、バッテリが爆発するおそれがあります。

・バッテリ液（希硫酸）が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

・バッテリに火気を近づけないでください。

・バッテリの充電は車両から取り外して行ってください。

・バッテリの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。

⚠ 注 意

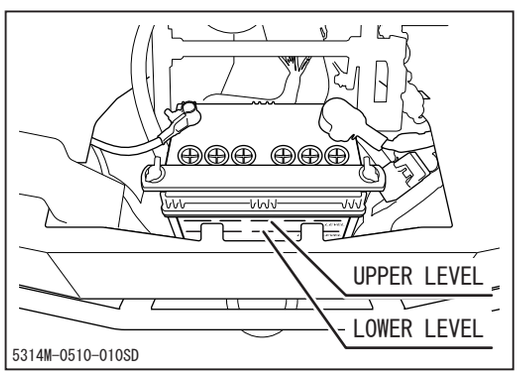
・バッテリ液を補給する時は、バッテリ液量が「UPPER LEVEL」以上になるまで補給をしないでください。バッテリ液がもれて塗装面を傷つけたり、部品を腐食させたりするおそれがあります。

・バッテリを充電するときは、使用する充電器の取扱説明書の指示に従ってください。

・バッテリ端子を取り外すときは（－）端子から取り外し、取り付けるときは（＋）端子から取り付けてください。（＋）端子と車体の間に工具等が接触するとショートします。

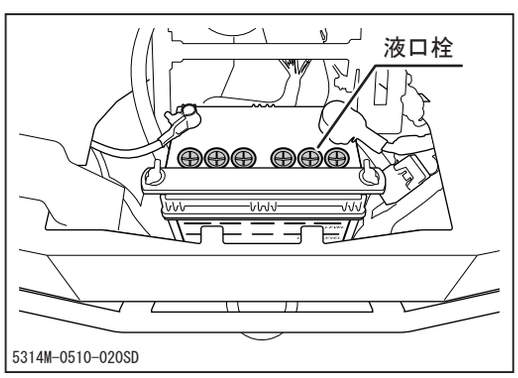
⚠ 注　意

・バッテリ端子をバッテリに取り付けるときには（＋）と（－）を間違えないでください。また、端子はしっかりと取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。



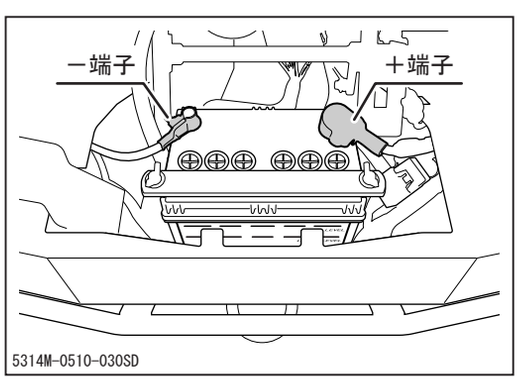
点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. フロントカバーを取り外します。
3. バッテリ液量が「UPPER LEVEL」（以下U.L）と「LOWER LEVEL」（以下L.L）の間にあることを確認します。
4. バッテリ液量が「U.L」と「L.L」の中間より少ない場合は補給します。
5. フロントカバーを取り付けます。



補給

1. フロントカバーを取り外します。
2. 液口栓を取り外します。
3. 蒸留水を「U.L」まで補給してください。
4. 液口栓を取り付けます。
5. フロントカバーを取り付けます。



充電

1. フロントカバーを取り外します。
2. バッテリを取り外します。
3. 充電器の取扱説明書に従い、バッテリを充電します。
4. 充電が終了したらバッテリを車両に取り付けます。
5. フロントカバーを取り付けます。

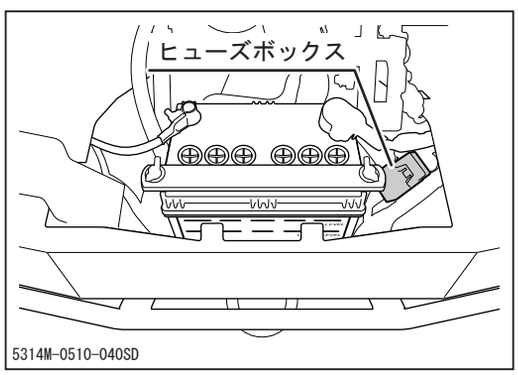
ヒューズの点検・交換

⚠ 注 意

・ヒューズが切れているときは、原因を調査し、修理をしてから交換してください。

・ヒューズは指定容量のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。

本機には電気回路全体を保護するメインヒューズと、充電回路を保護するチャージヒューズがあります。



点検

1. フロントカバーを取り外します。
2. ヒューズボックスからヒューズを取り外し、ヒューズが切れていないかをチェックします。切れている場合にはヒューズを交換します。
3. ヒューズを取り付けます。
4. フロントカバーを取り付けます。

交換

1. 切れているヒューズを取り外します。
2. 新しいヒューズを取り付けます。

アドバイス

・指定ヒューズ：15A（青・メインヒューズ）・20A（黄・チャージヒューズ）

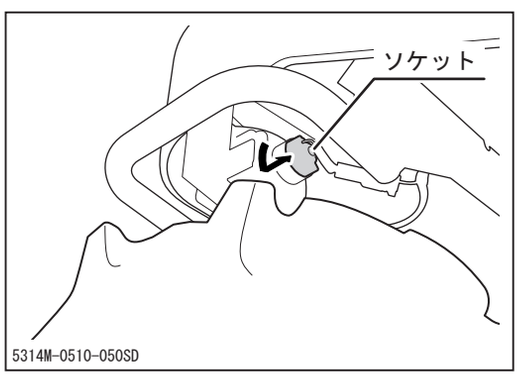
ライトバルブの交換

⚠ 注　意

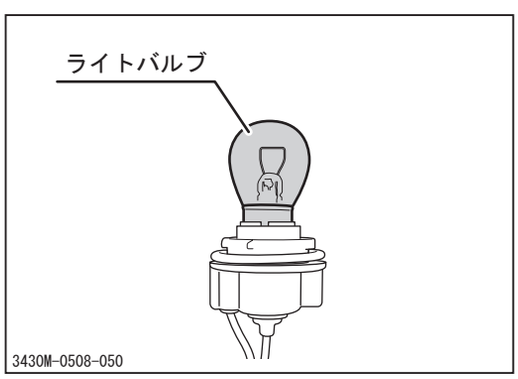
・ライトバルブが切れた場合はすぐに新品と交換してください

・ライトバルブは指定のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。

・ライトバルブを素手で触らないでください。バルブの寿命が縮まるおそれがあります。



1.　ソケットをライトユニットから取り外します。



2.　ライトバルブを新品と交換します。
3.　ソケットをライトユニットに取り付けます。

アドバイス

・指定バルブ：☞33ページ

使用後のお手入れ

通常使用後のお手入れ

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに凍結個所を水・お湯等で溶かすか、凍結が溶けるまで待ってから動かしてください。無理に動かした場合、故障するおそれがあります。

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面または角材の上に駐車します。
3. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

⚠ 警　告

・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

1. 車両を駐車します。
2. 車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
3. **「定期点検表」**（☞30ページ）に従って各箇所の点検を行い、不具合があれば清掃します。
4. 外面を油のしみた布で清掃し、給脂・注油箇所に給脂・注油します。
5. エンジンオイルを交換します。
6. エアクリーナエレメントを清掃します。
7. 燃料タンクおよびキャブレタ内の燃料を抜き取ります。
8. タイヤに、指定空気圧の１割増しを目安に空気を入れ、前輪の前後に輪止めをします。
9. 車両からバッテリを取り外し、バッテリ液の点検・補給・充電を行います。
10. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

アドバイス

・バッテリは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリを長持ちさせることができます。
・エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

6 不具合発生時の処置

不具合診断表

・不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社営業所）へ連絡してください。

・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店（当社営業所）へ依頼してください。

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	エンジンがかからないまたはかかりにくい	燃料切れ	→補給する	12ページ
		燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する	
		バッテリの容量不足	→バッテリ液を補給する →バッテリを充電する →バッテリを交換する	56ページ 56ページ
		バッテリ端子の外れまたは断線	→接続または修理する	
		エンジンオイルの不足または品質不良	→補給または交換する	39ページ
		点火プラグの汚れ等による着火不良	→清掃または交換する	42ページ
		その他（上記以外）	→**「始動のしかた」**の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	14ページ
	すぐにエンストする	燃料切れ	→補給する	12ページ
		チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	12ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	41ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	出力または加速不足	燃料不良	→交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	41ページ
		Vベルトの緩み	→調整する	48ページ
		過負荷	→負荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	39ページ
		ブロアハウジング、冷却フィンの目詰まり	→清掃する	42ページ
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	41ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	41ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	燃料不良	→交換する	
		エンジンオイルが入り過ぎている	→点検後オイル量を調整する	39ページ
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	39ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
走行装置関連	走行レバーを動かしても車両が動かない	ＨＳＴオイルの不足	→補給する	47ページ
		駐車ブレーキが効いている	→駐車ブレーキを解除する	
		Vベルトの緩み	→調整する	48ページ
		その他（上記以外）	→**「運転のしかた」**の手順に従って運転を試み、走行不可能の場合は販売店へお問い合わせください	17ページ
	走行レバーを中立にしても車両が動く	ＨＳＴの中立が狂っている	→調整する	49ページ

6 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
走行装置関連	ギヤ抜けする	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	旋回が円滑に行えない	タイヤ空気圧の調整不良	→調整する	44ページ
		前車軸左右（キングピン）の給脂不足	→給脂する	46ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	直進性が悪い	ハンドル連結部（タイロッド）の調整不良	→販売店へお問い合わせください	
制動装置関連	ブレーキおよび駐車ブレーキの効きが悪いまたは片効きする	調整不良	→調整する	49ページ
		ブレーキドラム内に水が浸入	→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
車体関連	車体の異常振動	タイヤ空気圧の調整不良	→調整する	44ページ
		前車軸左右（キングピン）の給脂不足	→給脂する	46ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
電装品	前照灯の点灯不良	バルブ切れ	→交換する	59ページ
		ヒューズ切れ	→交換する	58ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
刈取装置関連	刈刃が回転しない	ベルト切れ	→交換する	
		刈刃駆動プロペラシャフトの駆動ピン折損	→交換する	
	刈刃が停止しない	刈刃ブレーキの消耗	→交換する	
	ベルトが滑る	Vベルトの緩み	→調整する	53ページ
		Vベルトの消耗	→交換する	
		刈刃プーリに草が堆積している	→清掃する	
		刈刃カバー内に草がたまっている	→清掃する	
	刈刃を回転させると異常振動が発生する	刈刃の欠損または脱落	→刈刃を交換する	50ページ
		異物を巻き込んでいる	→異物を取り除く	
		ベルトの破損	→交換する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
刈取装置関連	刈った草がうまく放出されない	草が湿っている	→草が乾燥してから作業する	
		草が長い	→刈高さを高くして2度刈りをする	
		刈高さが低い	→刈高さを高くする	
		エンジン回転数が低い	→最高回転数にする	
		作業速度が速い	→作業速度を遅くする	
	刈り残しがある	草が長い	→刈高さを高くして2度刈りをする	
		エンジン回転数が低い	→最高回転数にする	
		作業速度が速い	→作業速度を遅くする	
		刈刃の消耗、破損	→交換する	
		刈刃カバー内に草がたまっている	→清掃する	
	土削りがある	刈高さが低い	→刈高さを高くする	
		旋回速度が速い	→旋回速度を遅くする	
		地形に起伏がある	→刈高さを高くする	
		刈刃の曲がり	→交換する	
	刈取作業負荷が大きい	エンジン回転数が低い	→最高回転数にする	
		作業速度が速い	→作業速度を遅くする	
		刈刃軸に草が巻き付いている	→清掃する	

トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警 告

・トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。

・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。

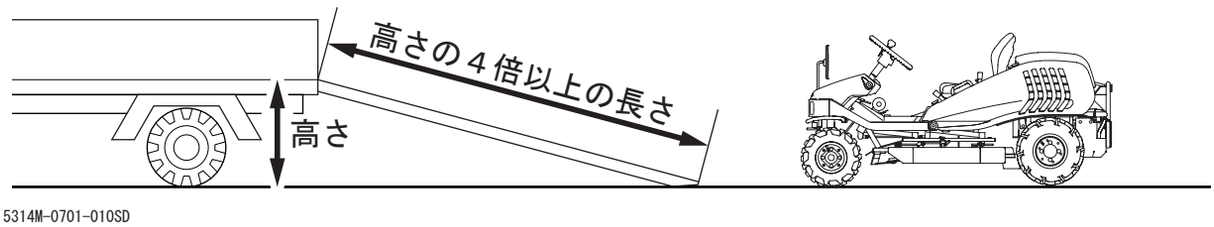
・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（タイヤ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。

・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。

・前進でゆっくりと積み込んでください。

・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。

・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。

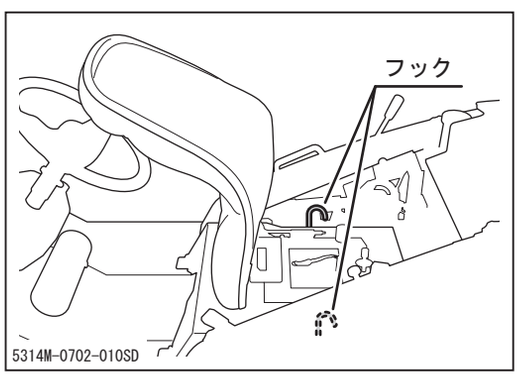


1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 副変速を「低速」にし、前進でゆっくりと積み込みます。
   その際、刈取装置をアユミ板や荷台にぶつけないように注意してください。
4. **「駐車のしかた」**の手順に従い、車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。

クレーン等による吊り上げ要領

⚠ 警 告

- クレーンの操作および玉掛けには資格が必要です。資格のない人は作業を行わないでください。
- 吊り上げに使用するワイヤーロープ（またはチェーン等）は、車両の重量に対して十分強度のあるものを使用してください。
- 車両を吊り上げるときは、重心位置およびバランスに注意してください。



1. シートを持ち上げます。
2. フックにワイヤーロープを掛け、車両を吊り上げます。

緊急時の移動のしかた

エンジントラブル等により、本製品を通常操作により動かすことができなくなった場合には、無理に動かさず下記の手順に従って本製品を移動させてください。

⚠ 警 告

- 傾斜地ではこの方法による機械の移動は行わないでください。

1. 草刈作業中の場合は刈刃を停止させ、刈刃カバーを上限まで上げます。
2. 車両を駐車します。
3. 副変速レバーを「中立」にします。
4. 駐車ブレーキを解除します。
5. 車両を移動させます。

shindaiwa

保 証 書

（Type-A）

このたびは新ダイワ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。お買い上げいただいた製品につきましては、つぎの通り保証いたします。

1． 保証期間

無償保証修理を受けられる期間はお買い上げ日から１年間といたします。但し、専門業者またはレンタル業など業としてご使用の方はお買い上げの日から６カ月といたします。

2． 保証内容

保証期間に通常の使用状態で本機を構成する部品に材料または製造上の不具合が発生し、弊社がこの欠陥を認めた場合にかぎり、修理を無償でいたします。

3． 保証の適用除外

つぎに示すような場合は保証期間中であっても有償修理となります。

（１）取扱説明書に示す正しい取扱い操作や日常・定期点検、保管方法を行なわなかったために生じた故障
（２）弊社が示す仕様の限度をこえて使用したために生じた故障
（３）弊社が認めていない改造・変更が原因となって生じた故障
（４）弊社のサービス指定工場および弊社が認めたところ以外で修理し、それが原因で生じた故障
（５）弊社の純正部品以外の部品を使用したために生じた故障
（６）時の経過による変化（塗装面・メッキ面の自然退色、発錆など）
（７）一般的に品質、機能および安全上に全く影響がないと認められる音、振動、オイルのにじみ、外観上の軽微なキズなど
（８）自然災害または事故、過失、不注意による本機の損傷
（９）一般消耗品等で使用上における自然摩耗と認められるもの
（10）製品が日本国外で使用された場合

4． 注意事項

（１）本保証書の提示なき場合または記載内容の不備あるいは改訂のある場合は保証しかねる場合があります。
（２）本機の故障に起因するまたは関連するあらゆる損失および費用は保証の範囲から除外させていただきます。
（３）保証書の再発行はいたしませんので、大切に保管してください。

機種(型式名)：		製造番号：
お買い上げ日：	年　　月　　日	
お客様	お名前：　　印	
	おところ：〒	
	TEL：	ご職業：
販売店	住所：	
	店名： TEL：　　印	

新ダイワ工業株式会社
広島市安佐南区大塚西６丁目２－11

新ダイワ工業株式会社

本　社	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	TEL	082-849-2001
札幌営業所	〒065-0033	札幌市東区北三十三条東17丁目4-17	TEL	011-783-7551
仙台営業所	〒984-0042	宮城県仙台市若林区大和町1丁目22-45	TEL	022-239-1688
郡山営業所	〒963-0107	福島県郡山市安積4丁目48-1	TEL	024-945-8678
盛岡営業所	〒020-0122	岩手県盛岡市みたけ4丁目3-5	TEL	019-641-3416
東京営業所	〒134-0083	東京都江戸川区中葛西6丁目17-8	TEL	03-3687-5771
千葉営業所	〒264-0025	千葉市若葉区都賀3丁目19-1	TEL	043-214-0260
多摩営業所	〒192-0043	東京都八王子市暁町2丁目6-3	TEL	0426-20-5590
横浜営業所	〒222-0025	神奈川県横浜市港北区篠原西町34-33	TEL	045-431-7786
静岡営業所	〒422-8046	静岡市駿河区中島2834-1	TEL	054-282-7012
さいたま営業所	〒331-0811	埼玉県さいたま市北区吉野町1丁目19-4	TEL	048-666-2521
宇都宮営業所	〒321-0912	栃木県宇都宮市石井町3149-28	TEL	028-656-8737
土浦営業所	〒315-0052	茨城県かすみがうら市下稲吉1628-4	TEL	0299-59-1005
前橋営業所	〒371-0037	群馬県前橋市上小出町2丁目46-3	TEL	027-234-5956
長野営業所	〒381-0043	長野市吉田5丁目24-16	TEL	026-244-3970
新潟営業所	〒950-0892	新潟市寺山3丁目32-12	TEL	025-275-5616
名古屋営業所	〒454-0826	愛知県名古屋市中川区小本本町1-75	TEL	052-362-2281
浜松営業所	〒430-0852	静岡県浜松市中区領家3丁目11-1	TEL	053-465-1140
津　営　業　所	〒514-0823	三重県津市大字半田池町590-5	TEL	059-227-2716
岐阜営業所	〒500-8367	岐阜市宇佐南4丁目2-4	TEL	058-271-4015
金沢営業所	〒920-0016	石川県金沢市諸江町中丁344	TEL	076-237-1230
大阪営業所	〒556-0022	大阪市浪速区桜川4丁目11-20	TEL	06-6561-8484
和歌山営業所	〒640-8482	和歌山市六十谷226-6 黒田コーポ	TEL	073-462-7277
京都営業所	〒601-8304	京都市南区吉祥院前河原町1	TEL	075-321-0141
姫路営業所	〒670-0974	兵庫県姫路市飯田2-88	TEL	0792-33-6838
広島営業所	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	TEL	082-849-2400
防府営業所	〒747-0031	山口県防府市迫戸町5丁目25	TEL	0835-27-0575
岡山営業所	〒700-0965	岡山市西長瀬261-104	TEL	086-241-3013
高松営業所	〒761-0101	香川県高松市春日町片田1638-7	TEL	087-843-1201
松山営業所	〒790-0064	愛媛県松山市愛光町9-14	TEL	089-922-8886
福岡営業所	〒812-0006	福岡市博多区上牟田3丁目5-22	TEL	092-411-9801
小倉営業所	〒803-0826	福岡県北九州市小倉北区高峰町10-8	TEL	093-561-3422
諫早営業所	〒854-0066	長崎県諫早市久山町1785-5	TEL	0957-49-8857
大分営業所	〒870-0155	大分市高城南町7-13	TEL	097-552-1745
熊本営業所	〒862-0910	熊本市健軍本町7-17	TEL	096-365-0484
鹿児島営業所	〒890-0073	鹿児島市宇宿2丁目23-18	TEL	099-257-6801
宮崎営業所	〒880-2112	宮崎市小松2399-6	TEL	0985-62-3612

070227